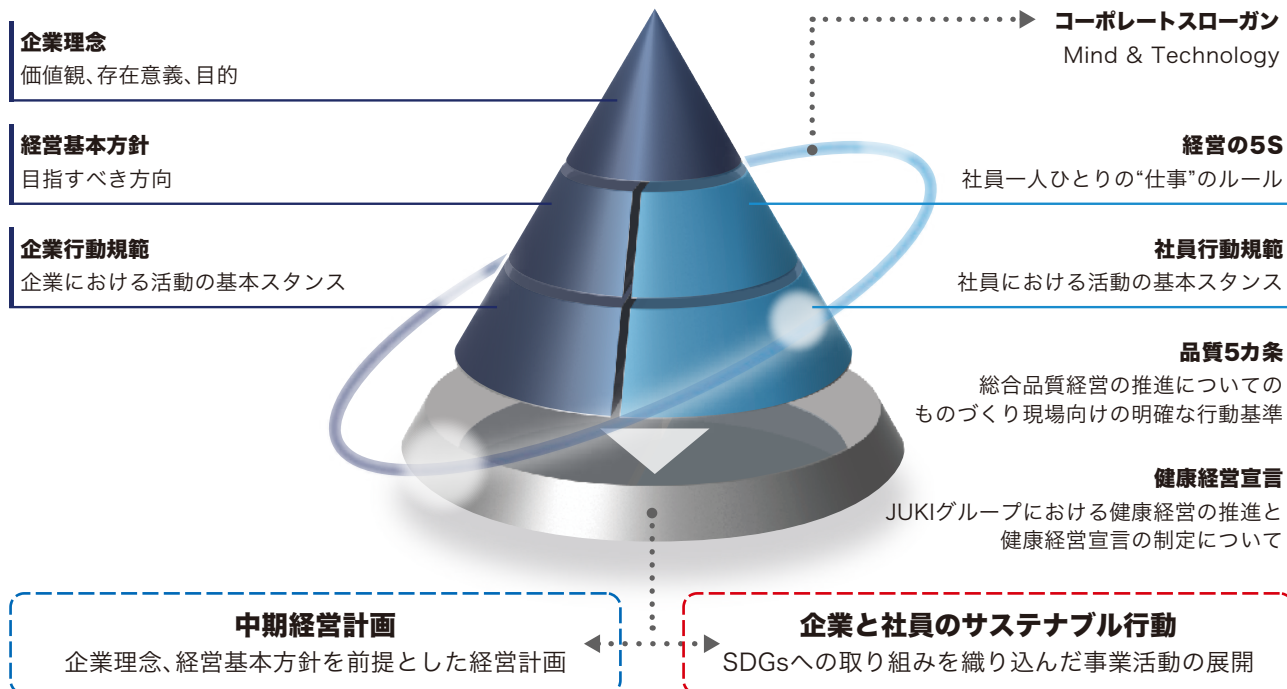




JUKIコーポレートレポート 2020



JUKIグループ企業理念体系図



企業理念

1. JUKIは、ここに集い、人々のしあわせを実現し、社会に貢献する
1. JUKIは、技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す

経営基本方針

1. 総合品質経営を推進する
1. イノベティブ(革新的)で活気のある人と組織をつくる
1. 国際社会に適合する経営を行う

コーポレートスローガン

Mind & Technology

企業行動規範

1. 社会的に有用な製品・サービスを安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得するように努めます。
2. 商取引においては公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。
4. 社員一人ひとりの多様性、人格、個性を尊重すると共に、安全で働きやすい環境を確保するように努めます。
5. 地球環境を大切にし、資源の有効活用、資源のリサイクル、省エネルギーに積極的に取り組みます。
6. よき企業市民として、地域社会との交流を深め、地域の社会活動への参加等を通じて、広く社会貢献に努めます。
7. 社会の秩序や企業の健全な活動に悪影響を及ぼす反社会的な個人・団体には毅然たる態度で対応します。
8. 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するように努めます。

万一、「企業行動規範」に反するような事態が発生したときには、経営トップは、断固として責任ある対応をします。



選ばれる
ソリューションパートナーへ

Global & Innovative

1938年の創業から今日まで、JUKIは世界の産業界に最高品質の製品とサービスを提供し、持続的な成長を実現してきました。発展の原動力となったもの、それは「すべてはお客様のために」という思いです。

イノベーションを起こす製品開発へのチャレンジに加え、お客様工場のラインの生産性を飛躍的に高めるソリューションでお客様の価値創造に貢献します。世界185カ国以上にお客様を持つグローバル企業として、JUKIは、進化と変革のDNAを堅持しながら、グローバルでイノベティブな挑戦をこれからも続けてまいります。

CONTENTS

JUKIとは

• 企業理念	2
• JUKIの思い	3
• JUKI製品を使ってつくられるもの	4
• JUKIの企業価値創造	6
• 社長インタビュー	8

JUKIの事業

• 事業領域	14
縫製機器&システム事業	
• 工業用ミシン事業	16
• 家庭用ミシン事業	20
産業機器&システム事業	
• 産業装置事業	22
• グループ事業	27
• カスタマービジネス	30

JUKIの価値創造

• 技術開発力	32
• 生産力	36

JUKIのSDGs

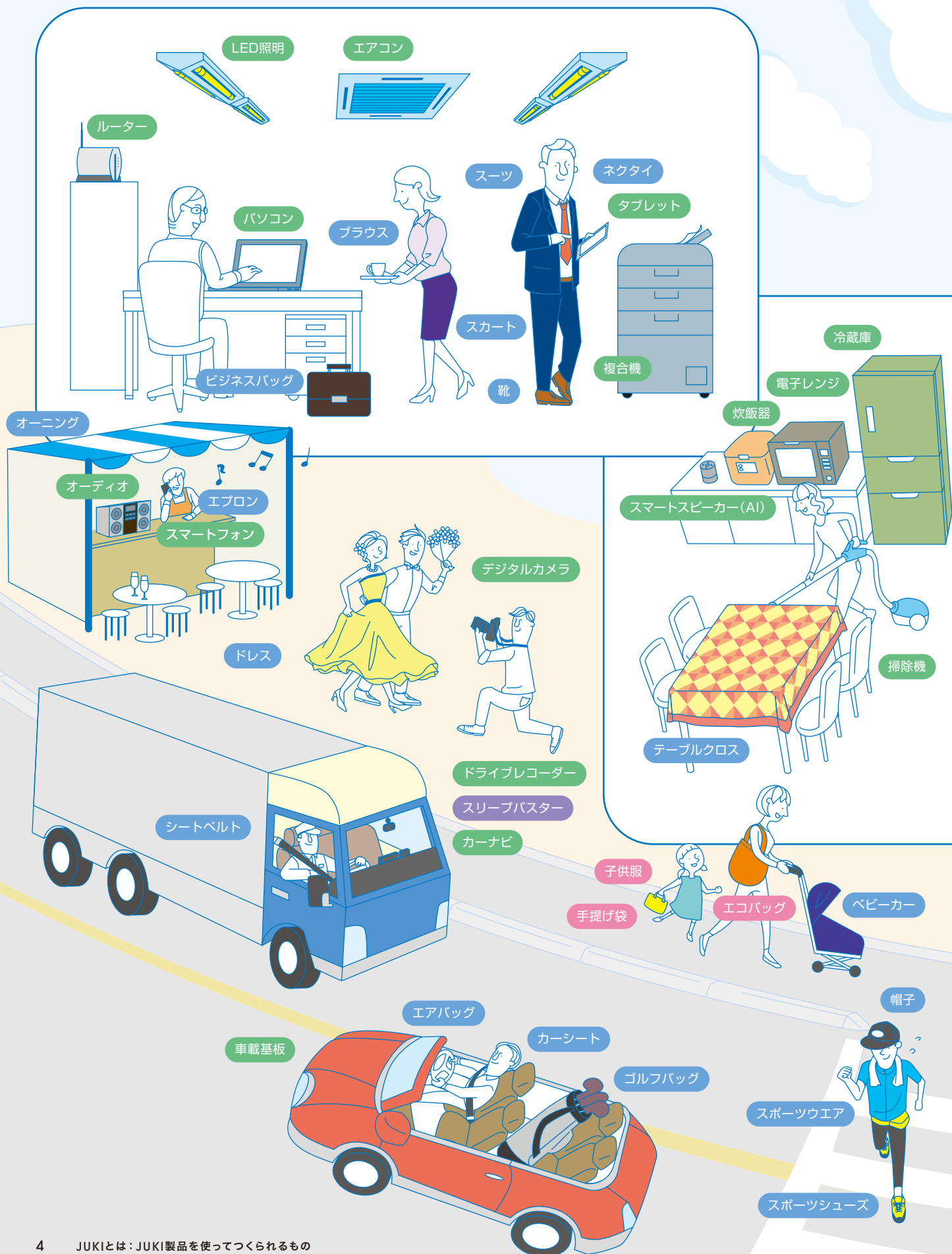
• SDGsの概念	40
• JUKIのSDGsの取り組み	42

データセクション

• 財務データ	50
• 沿革	54
• JUKIのグローバル拠点	56
• 会社概要および株式情報	58

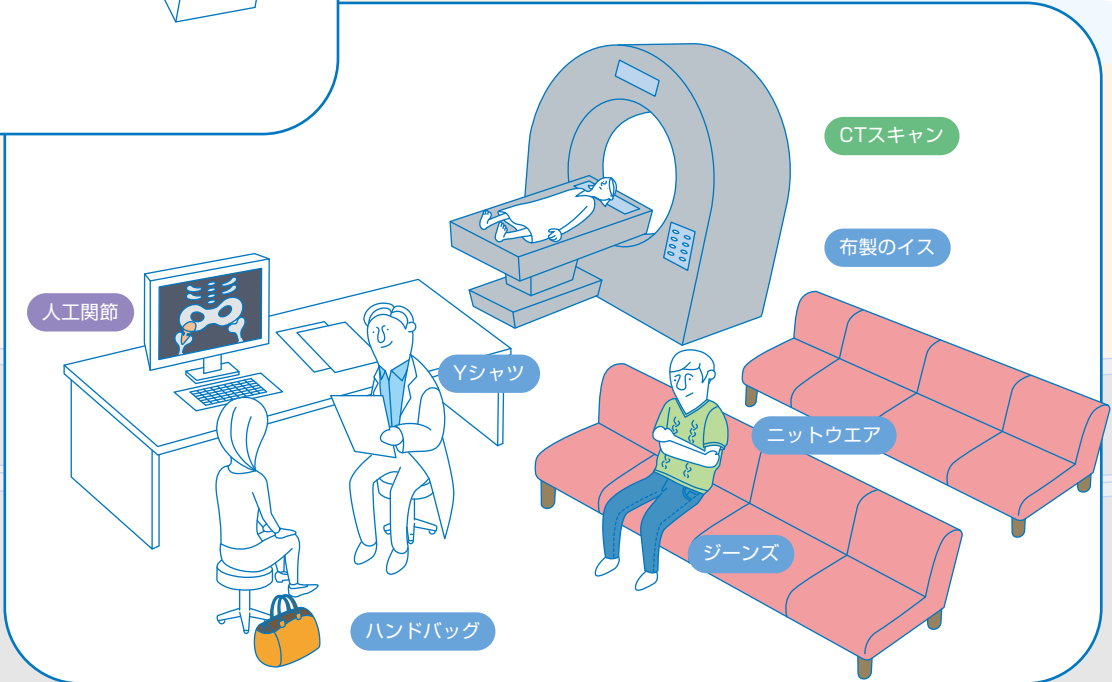
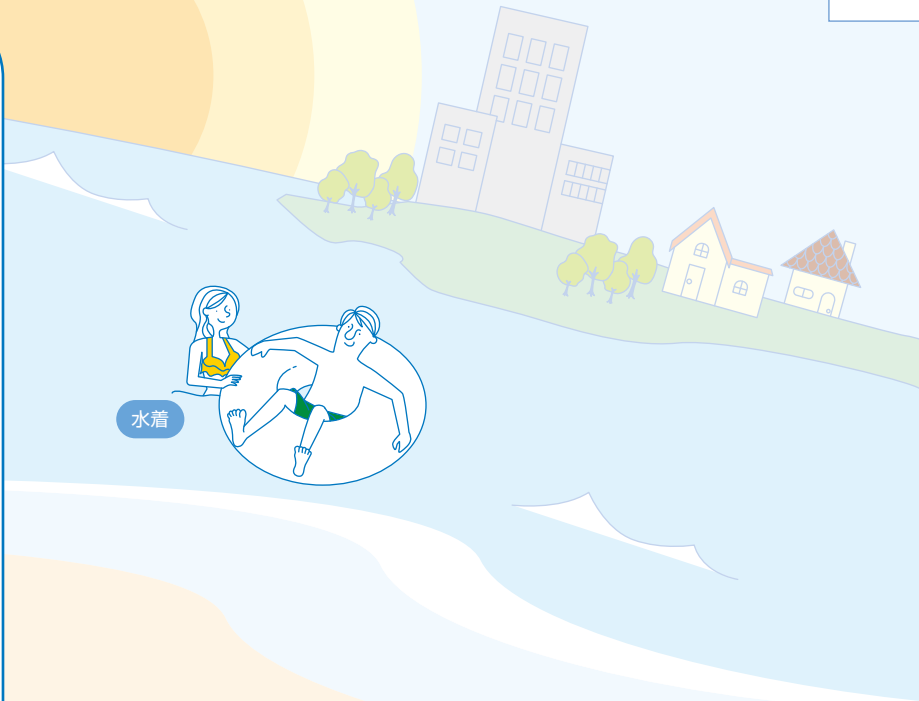
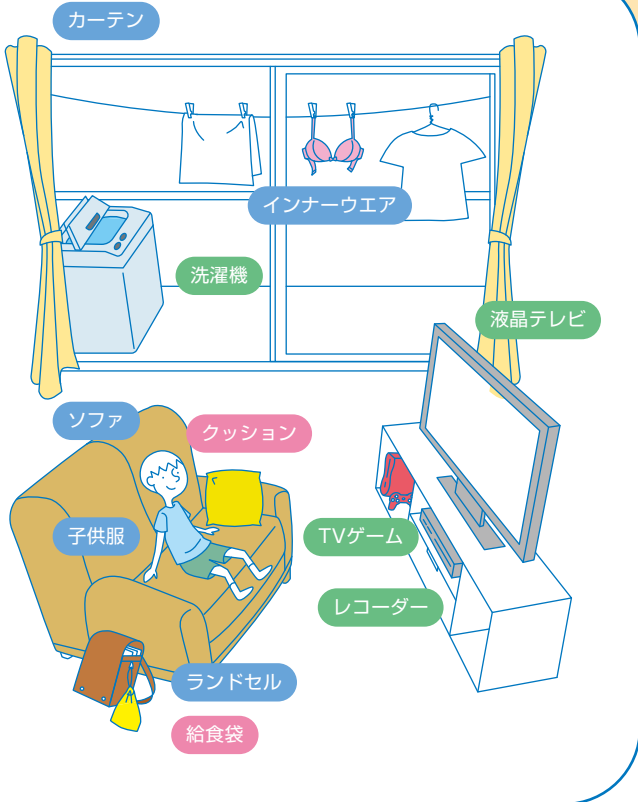
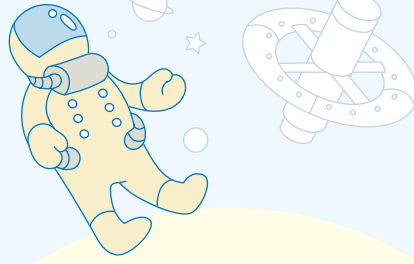
JUKI製品を使ってつくられるもの

JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています



- 工業用ミシンを使ってつくられるもの
- 家庭用ミシンを使ってつくられるもの
- 産業装置を使ってつくられるもの
- グループ事業によってつくられるもの

宇宙服



JUKIの企業価値創造フロー(ビジネスモデル)

JUKIは、中期経営計画「JUKI Value up 2022」のもと、お客様、お取引先、株主・投資家、社会、従業員といったステークホルダーに対し、企業価値創造に取り組んでいます。そして、JUKIの成長サイクルにより、イノベティブで活気のある企業を実現し、JUKIの企業価値創造の力をさらに高めていく取り組みを行っています。

2020-2022 中期経営計画

2020年ビジョン

お客様に選ばれるイノベティブで高品質な製品・サービスを提供しつづける企業
～世界中のお客様へ「感動と安心」をお届けしよう!!～
“モノづくり”から“コトづくり”企業への転換

行動指針

- ① 世界中のお客様の生産ラインを止めない
- ② 目標達成にこだわる (Never give up)
- ③ 「経営の5S」と「JUKIグループ社員行動規範“10カ条”」の遵守
- ④ SDGs経営の実践

5つの変革

詳細▶p.12

- ① 成長力のある市場・お客様の開拓
ボーダレスX
- ② 収益力をアップする事業領域の拡大
ビジネスモデルX
- ③ イノベティブな技術領域の拡大
R&DモデルX
- ④ 経営の5Sを軸とした生産体制及び管理(間接)業務体制の構築
働き方改革X
- ⑤ “持続可能な”経営の実践
SDGs経営X

「5つの変革」を軸にした中期経営計画の重点取り組み

詳細:▶p.13

※経営5S
(Simple, Slim, Speedy, Seamless, Smart)

JUKIの事業

工業用ミシン事業 ▶p.16



家庭用ミシン事業 ▶p.20



産業装置事業 ▶p.22



グループ事業 ▶p.27



カスタマービジネス ▶p.30



生産

▶p.36

開発

▶p.32



お取引先/協力企業

販売

JUKI

技術
サポート

企業理念
の実現

ステークホルダーへの 価値提供

E

Environment
環境

環境経営を宣言し、社会的要請に
応えるため、環境への配慮、温
室効果ガス排出削減や地球温暖
化防止等の環境規制を順守し、
その責任を果たしています。

S

Social
社会

グローバルに展開する企業として、
各国の地域および社会と良好
な関係を築き、良き企業市民と
して、社会の要請や期待に応え
られるように取り組んでいます。

G

Governance
ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制
の充実、コンプライアンスの
徹底およびリスクマネジメント
の強化に努め、透明性の高い
経営を目指します。

グループ会社

フィードバック



JUKI株式会社
代表取締役社長
清原 晃

社長インタビュー

社員一丸となって創造的・破壊的イノベーションに挑戦し、JUKIグループの持続的成長への道を拓く

世界経済が目まぐるしく変動し、技術革新が急速に進展する中、将来への成長基盤構築のため中期経営計画2020-2022（フェーズⅡ）を推進するJUKIグループ。構造改革をはじめとする現在の取り組みと中長期の持続的成長への戦略について、若手社員5名が清原社長にインタビューしました。



●インタビュー

業績の早期回復を目指して事業構造改革に注力

—2019年度は世界経済の影響を受けて製造業全体が厳しい事業環境となりました。JUKIグループの2019年度連結業績に対する清原社長の認識をお聞かせください。

2019年度の事業環境は、中国における景気減速や米中貿易摩擦の長期化、英国のEU離脱問題などにより、世界経済の不透明性・不確実性が増す一方、IoTやAI、5Gなどの技術革新が想像以上のスピードで進み、デジタル化、システム化の活用など、お客様のスマートファクトリーへの戦略的投資ニーズが高まりました。

JUKI全体の業績を振り返りますと、2019年12月期の連結業績について、売上高は前年同期比11.5%の減、経常利益は前年同期比64.9%の減となり、前年比で**減収減益**となりました。特に第3四半期以降、米中貿易摩擦により設備投資需要が減速し、経費と投資の節減など、社員の皆さんの理解と協力を得て対応策を実施しましたが、それ以上に売上と収益の落ち込みが大きく、通期業績は残念な結果となりました。

2019年度に顕在化した課題を3点挙げますと、第1はJUKIが重点施策に据えている「事業領域の拡大」や「ボーダレス」の進展が実行力不足により思うように進まなかったことです。特に海外の工業用ミシン販売については、海外メーカーの後塵を拝している地域もあります。第2は市場における価格競争の激化や新製品・差別化製品の市場投入の遅れにより収益性が悪化しました。一部製品の品質問題や、お客様のニーズとアンマッチがあり、調整に時間

を要しました。お客様の信頼と期待に応えるには、お客様ニーズに沿った、**差別化したソリューション提案が不可欠**であることを痛感しています。第3は管理部門のスリム化が進展せず、高コスト体質が継続したことです。JUKIが今後も成長軌道を維持していくためには、**早急に構造改革を実行し、収益力を回復させることが不可欠**だと考えています。

—事業面や経営体制面では今後に関わる取り組みや成果もあったのではないかと思います。清原社長のお考えをお聞かせください。

事業面ではJUKIグループの今後の成長を牽引する力強い動きもいくつかありました。一つは、産業装置部門とグループ事業部門の協業による「検査・計測事業」が拡大したことです。これにより、従来の実装関連（SMT）のお客様だけではなく、**非SMT顧客にも検査機が販売**できるようになってきました。検査・計測機をはじめ、MIなどの省力化機器、SMTの前後工程となる自動倉庫などが、労働力不足の中でお客様のニーズにマッチし、事業領域の拡大に伴って伸びてきました。また、カスタマービジネスでは、アライアンスを活用したシステムサービスの進展やオンラインによるパーツサポートの体制拡充も成果として挙げられます。**システムのサービス化、あるいはサービス事業化に進展**がありました。InstagramなどのSNSを活用し、IoTの時代に合った独自のマーケティング戦略により家庭用ミシン



2012年入社
手賀 友暁

2016年入社
吉村 里未

代表取締役社長
清原 晃

のお客様を増やすことにも成功しました。SNSでお客様のユースケースを寄せていただき、それを展開した結果、JUKI全体では減収減益ですが、**家庭用ミシンは増収増益**を達成しています。さらに製品開発にユーザーエクスペリエンス（UX：利用者体験）の設計思想を導入し、ユーザーの意見をベースに使いやすさを追求するなど、UXの質を向上させる取り組みも着実に前進しています。

これらの取り組みはいずれも「**事業領域の拡大**」や「**技術領域の拡大**」に繋がるものです。お客様の幅広いニーズに応えるためにイノベーションを通じて新しいマーケットを技術的、体制的に取り込んでいく、そうした動きが本格化してきたことに確かな手応えを感じているところです。

——JUKIは激変する事業環境に迅速かつ的確に対応するため、3年間の中期経営計画を絶えずローリングしながら事業戦略や各種施策を策定・実行しています。中期経営計画フェーズⅡ（2020–2022年）の位置付けと取り組み方針を教えてください。

新たな中期経営計画（フェーズⅡ）では、構造改革による収益力の回復を目指すとともに、将来の経営基盤構築に向けて、2017年から2019年度までの中期経営計画フェーズⅠにやり残した課題や事業環境変化への対応に“**One Team**”で取り組むことを基本方針としています。“**One Team**”は、ラグビー日本代表チームの合言葉ですが、JUKIでも現在の状況を打開するには、グループ全社員がビジョンを共有し、共通の目標に向かって邁進する“**One Team**”の考え方が必要だと考えました。

2019年までの中期経営計画では、マーケット変化への対応や高付加価値分野への事業領域拡大の遅れ、さらには、顧客ニーズや先端技術の製品への取り込みが

不十分であったことなど、課題を残しました。中期経営計画2020–2022では、こうした課題を方針・施策に組み込んで、重点的に取り組んでいきます。JUKIの**持続的な成長のため、事業基盤を構築する仕上げの期間**、という位置付けです。また、6ヵ月ごとに計画の進捗状況を確認し、会社が3年後のゴールに向かって正しく進んでいるかどうかのチェックを行う予定です。社員すべての力を結集して2022年のゴールである「お客様とJUKIが製品・サービスを通じて、企業価値を向上できる“**モノ・コト**”づくり企業」というビジョンの実現を目指していきたいと考えています。

——JUKIグループが中期経営計画の目標を達成するためには、何よりも自社の努力が大切ですが、事業環境の変化や市場動向にも目配りする必要があります。現在および今後の外部環境の推移を清原社長はどのように分析していますか。

私たちは今、時代の大きな潮目（=変わり目）にあります。事業の環境を、お客様、競合他社、技術革新の3点に絞ってその変化を見ていくと、まず米中貿易摩擦の影響や少子高齢化による労働力不足により生産拠点を移転するお客様が増えています。競合については、工業用ミシンではミドルマーケットでの競争が激化し、産業装置では競合メーカーの事業領域拡大や異業種からの参入により競争が激化しています。技術革新に関しては、DX（Digital Transformation）という言葉に象徴されるように、AI、IoT、5G等の先端技術がめざましい進化を遂げ、企業活動や私たちの暮らしの在り方を大きく変えようとしています。こうした環境変化に即応し、新たなステージを切り拓くためには、何よりも人材力が必要です。一人ひとりの能力アップと改革にける意志を高めていかななくてはなりません。



2016年入社
渡邊 千尋

2014年入社
松浦 東吾

2013年入社
佐野 孝浩

JUKIとは

経営環境を考える上で、もう一つ忘れてはならないことは株主・投資家の視点を持つということです。近年、投資家は企業のESGに関わる施策やSDGs（持続可能な開発目標）への取り組み姿勢を重視するようになってきました。企業が持続的な成長を実現し、継続的な企業価値の向上を実現するためには、社会との関わりにおいて存在感を発揮していくことが求められています。SDGsへの取り組みは新たなビジネスチャンスの創出に繋がり、事業領域が広がっていくチャンスとなります。JUKIはこれからも**事業を通じてさまざまな社会課題の解決に貢献して**いきます。

領域の拡大を通じて収益基盤を強化するための「**収益力**」の強化、第3は、新製品・新サービスの開発を加速するための「**開発力**」の向上、第4はモノづくり強化のための「**生産力**」の基礎づくり、第5はスリムな管理間接部門を確立するための「**管理力**」の再構築、そして第6が人材活用の基盤となる「**人材力**」の底上げです。この六つの力が強化・拡大しているかどうか、徹底した進捗管理を行っていく計画です。

ポートフォリオの再構築に関しては、付加価値の高い分野や将来の成長が見込まれる地域を中心に売上の拡大を目指していきます。2022年までに工業用マシンでは、本縫い分野の販売額を伸ばしつつ、**ノンアパレル**や**特殊・自動機**などの付加価値が高い分野を拡大していく方針です。産業装置では、SMT分野を伸ばしつつ、**非マウント・非SMT**分野を拡大する事業構造とします。地域別ポートフォリオについては、工業用マシンで**各国のミドルマーケット**を深耕するとともに、産業装置では**特にアジア**を重点的に開拓していく方針です。

JUKIは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

——中期経営計画2020-2022の定量面の目標（ゴール）について教えてください。

基本目標は持続的な成長を確かなものにする、つまり毎年の増収増益が必達事項となります。連結売上高に関しては、毎年10%強の伸び率での増収を目標とし、経営計画の最終年度である2022年には1ドル=105円の計画レートベースで1,300億円を達成したいと考えています。収益面に関しては、計画レートベースで2022年に経常利益125億円を目標としたいと思います。

——中期経営計画2020-2022の着実な遂行に向けて、私たち社員一人ひとりが強い決意で臨むことが必要です。中期経営計画の基本方針と、JUKIが目指すべき事業構造について教えてください。

中期経営計画の基本方針については、構造改革を通して六つの力を底上げすることを目指していきます。第1は、ボーダレスに顧客基盤を強化するための「**販売力**」の向上、第2は事業

——中期経営計画2020-2022の初年度である2020年は厳しいスタートとなりましたが、今年度の基本方針について改めてご説明をお願いします。

世界は米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題など、国際情勢は依然として不透明なまま推移しています。私たちの暮らしにおいては、IoTやAI、5Gといった先端テクノロジーが想像以上のスピードで進化・浸透し、産業や生活の構造を大きく変えようとしています。こうした潮目の年に、JUKIは何としても早期の業績回復を実現し、将来への成長基盤を確立しなければなりません。

大切なことは、従来からの思考や手法に囚われることなく、営業、開発、生産、管理など**企業活動のあらゆる領域でイノベーションを創出し、新しい持続可能なビジネスモデルを構築**していくことです。そのために中期経営計画2020-2022には「5つの変革」について盛り込みました。

5つの変革、すなわち**5X** (X=Transformation) は、①成長力のある市場・お客様の開拓 (**ボーダレスX**)、②収益力をアップする事業領域の拡大 (**ビジネスモデルX**)、③イノベータティブな技術領域の拡大 (**R&DモデルX**)、④経営の5Sを軸とした生産体制及び管理(間接)業務体制の構築 (**働き方改革X**)、⑤持続可能な経営の実践 (**SDGs経営X**) で構成されます。社員一人ひとりが古い仕事のやり方を見直し、新しいことに果敢にかつ主体的に挑戦し、5Xを推進していくこと、それがJUKIの可能性を上げ、持続的成長への道を拓く新たな成長エンジンになると確信しています。



——JUKIが早期の業績回復を果たし、成長軌道に復するためには、私たち一人ひとりの自覚と取り組みが不可欠であることがよく分かりました。2020年度の基本方針と事業計画をご説明いただけますか。

中期経営計画2020-2022の目標を達成できるかどうかは、計画初年度である2020年度の取り組みの成否にかかっています。5つの変革(5X)を軸に、①構造改革によってコストを削減していく(**コスト構造改革**) ②事業領域の拡大によって付加価値を上げていく(**事業領域拡大による付加価値の極大化**)、追加施策として③ボーダレスの新しい顧客基盤を作っていく(**ボーダレスによる顧客基盤強化**)、という**三段構えの事業計画**を実行することにより、1ドル=105円の計画レートベースで売上高1,060億円、経常利益33億円の定量目標を達成し、中期経営計画の進捗に弾みをつけたいと思います。

第一段である**コスト構造改革**については、管理間接業務のスリム化、SCMの再構築、工場のスマート化改革など、コスト構造の見直しに取り組みます。

第二段階は**付加価値の極大化**への挑戦です。工業用マシンについては、高収益分野の営業力強化や新商品の拡販、家庭用マシンでは、お客様をセグメンテーションした上で新製品や戦略製品の拡販に取り組みます。産業装置では非マウンタ・非SMT分野の販売拡大、グループ事業

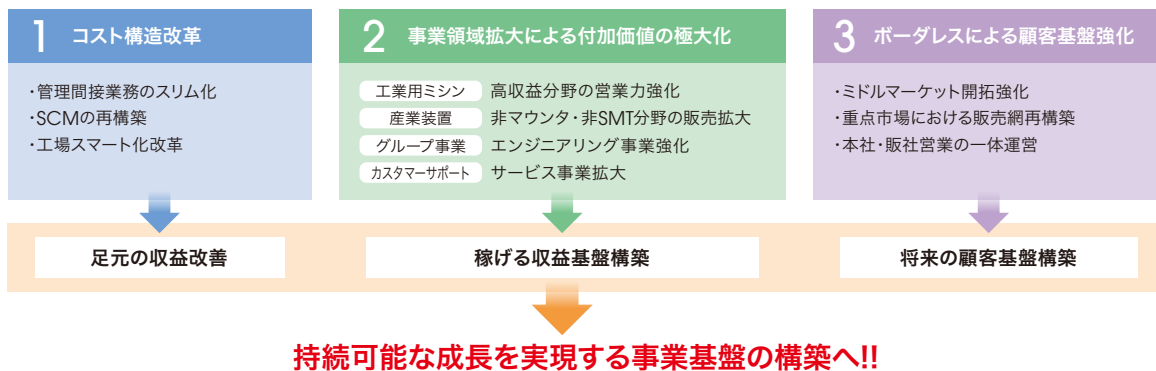
5X※ = 新しいJUKIの成長エンジン

これらを通じて“稼げるビジネスモデル”を作り
将来の顧客基盤を構築 ※X: Transformation=変革

5つの変革

- 1 **ボーダレスX**
成長力のある市場・お客様の開拓
- 2 **ビジネスモデルX**
収益力をアップする事業領域の拡大
- 3 **R&DモデルX**
イノベータティブな技術領域の拡大
- 4 **働き方改革X**
経営の5S※を軸とした生産体制及び管理(間接)業務体制の構築
※JUKIの経営5S (Simple, Slim, Speedy, Seamless, Smart)
- 5 **SDGs経営X**
“持続可能な”経営の実践

構造改革＝“5つの変革”を軸にした中期経営計画の重点取り組み



ではエンジニアリング事業の強化、カスタマービジネスではサービス事業の拡大に取り組みます。これら付加価値の極大化施策により、稼げる収益基盤を構築します。

そして第三段階が**ボーダレスによる顧客基盤強化**です。ボーダレスの営業活動を通じて、ミドルマーケット開拓強化、重点市場における販売網再構築、本社と販売会社営業の一体運営を推進します。ボーダレスの営業活動は、将来の顧客基盤構築を目的としています。この三段構えの事業計画をもとに、持続可能な成長を実現する事業基盤の構築を目指していきます。



——2020年度以降の投資計画についてはどのような方針をお持ちでしょうか。

投資活動はメーカーの生命線と言えるものですので、今後不要不急の投資は抑制しつつ、将来の成長を見据えた投資活動は積極的に進めていく方針です。2020年には自社工場のスマートファクトリー化に向けた自動化・省人化投資を実行すると同時に、差別化製品の開発に向けた先端開発投資や業務の効率化を目指すIT投資も着実に実施していきます。

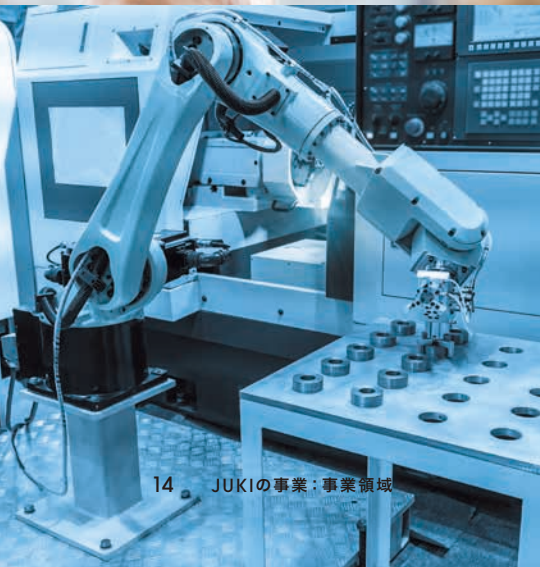
また、企業成長の源泉である人材への投資も行います。定年退職による自然減や採用の抑制で総人員を抑える一方、専門人材の積極採用や現社員の「学び直し」の支援など、幅広い人材施策を通じて、生産性のさらなる向上を実現していく考えです。

——最後に清原社長が私たち社員に期待することをお聞かせいただけますか。

社員の皆さんに強く望むことは、**創造的・破壊的なイノベーションにチャレンジ**してほしいということです。保守的で継続的な小手先の取り組みは、イノベーションの名に値しません。社員一人ひとりが自分事として中期経営計画フェーズⅡの進展に取り組んでほしいと思います。そうすれば成長への道は必ず開けてくると確信しています。

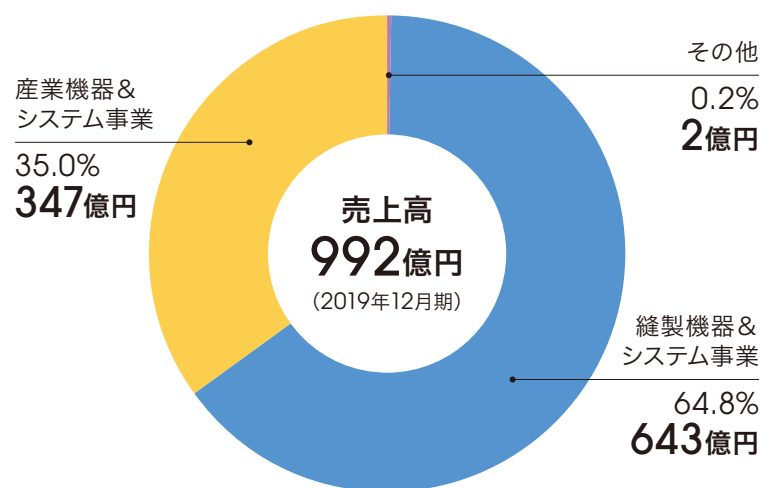
アメリカの詩人サミュエル・ウルマン（1840年～1924年）は、「青春の詩」で「青春とは人生のある期間を指すのではなく、心の持ち方を指すものだ」と述べています。**社員の皆さんの心の若さがJUKIを変えていく**ことを強く期待しています。共に頑張りましょう。
 〈2020年1月〉

事業領域



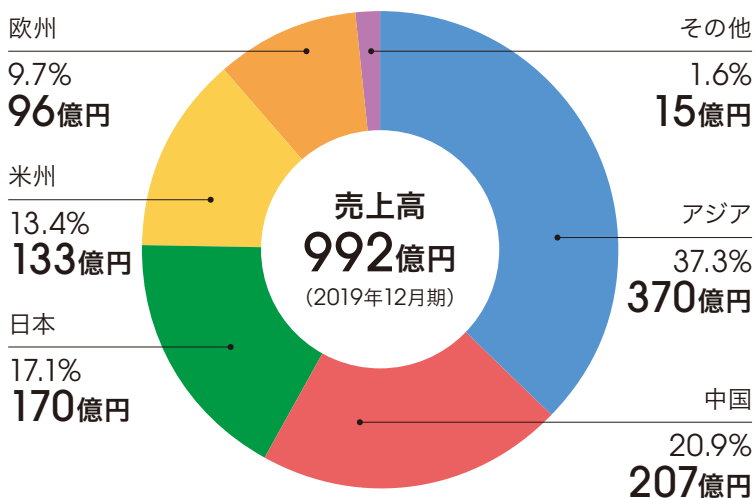
事業別売上高割合

JUKIは先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



地域別売上高割合

世界約185カ国以上をカバーする販売・サービスネットワークで、世界中のお客様から強い支持をいただいています。



世界のお客様のイノベーションに貢献する JUKI Smart Solutions

縫製機器 & システム事業

2,000機種以上のミシンやシステムで、プロ用から趣味層まで、あらゆる“縫い”をサポートする事業です。

工業用ミシン事業



縫製機器の業界を
牽引する世界トップの
リーディング事業

世界トップシェアの工業用ミシンを中心に、自動化装置・ITシステムなどと組み合わせ、最適な縫製工場作りをお手伝いさせていただき事業です。生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上などに、ラインソリューションでお応えします。

家庭用ミシン事業



Home Sewerの
創造性を刺激する製品を
提供する事業

工業用ミシンの性能を取り入れた確かな製品力で、快適なソーイングライフをサポートする事業です。様々なワークショップを開催し、幅広い分野の趣味層を応援します。

産業機器 & システム事業

永年培った“ものづくり力”を生かし、製品やシステム、開発力・製造力でお客様の生産工場をサポートする事業です。

産業装置事業

実装関連装置事業



基板製造工場を
トータル・ソリューション
でサポートする事業

「基板」を生産するための装置やシステムの提供を通じて、工場全体のスマート化をサポートさせていただき事業です。自動倉庫の運用、基幹システムとの連携で生産性・品質の向上に貢献します。

自動倉庫、検査・計測システム



IoT、画像処理技術で
技能者の手作業を
自動化する事業

基板生産工場に向けたスマート化技術を活用して、他業界における自動化をサポートする事業です。部品棚の自動化や目視検査の自動化を装置とシステムでサポートします。

カスタマービジネス



世界で活用される
JUKI製品を最適な
稼働状態にサポート
する事業

世界185カ国で活用されている工業用ミシンと産業装置を、パーツ供給やマシンのリモートコントロールを通じて、より良い環境でご使用いただけるように、サポートする事業です。

グループ事業

グループ事業(受託開発・製造事業)



「人・設備・方法・材料」
の総合力で製造会社を
サポートする事業

JUKIグループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを生かして、様々な製品の開発・製造・加工などを受託する事業です。

スリープバスター



安全な走行を
サポート

居眠り運転警告装置やそのデータを活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

データエントリーシステム



データ入力
プロをサポート

工夫された入力システムで、大量のデータを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

INDUSTRIAL SEWING MACHINES BUSINESS



Products



ダイレクトドライブ高速本縫
自動糸切りソーイングシステム
DDL-9000C



セミドライヘッド・シリンダーヘッド型
片面飾り偏平縫いミシン
MF-7900D



セミドライヘッド電子本縫千鳥縫
ソーイングシステム
LZ-2290C



入力機能付き
電子サイクルマシン
AMS-221F



185カ国以上のお客様をカバーするネットワークで、縫製産業を支える「世界シェアNo.1」事業

最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現し、世界の縫製産業を幅広く支えるJUKIの工業用マシン。

直線縫い、ジグザグ縫い、ボタン付けなどそれぞれの専用縫いを追及したマシン、縫製アイテムや素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルマシン、複数の工程をスイッチ一つで行う自動機マシンなど、幅広いラインアップで縫製ラインをワンプランドで揃えることができます。また、IoTを活用し、これらの機器をネットワークでつなぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを構築しています。

JUKIは「Smart Solutions」のキーワードのもと、革新的かつ高精度な技術でお客様のご要望に応え、それらをラインソリューションとして提案し、お客様の課題を解決します。



Customer Solutions

1. ワンプランドでのライン構築

JUKIの工業用マシンのラインアップは約2,000機種にも上ります。その種類は縫製する素材・用途によって、布帛用、ニット用、ノンアパレル用、複数工程を1台で完了する自動機など多種多様です。縫製品質、脱技能、生産性を追求した幅広いラインアップで、お客様のニーズに沿った最大限のパフォーマンスを実現するラインソリューションをご提供します。



2. マシンのデジタル化と工場見える化によるスマートファクトリー提案

マシンの調整をメカ式からデジタル化し、マシン間、工場間で共有することができ、段取り時間の大幅な短縮が図れます。また、デジタル化によりマシンの稼働データやメンテナンス情報を取得することができ、これらのデータを分析・加工することで工場見える化が図れます。縫製工程のロボット化など、JUKIのソリューションはスマート工場の実現をサポートします。



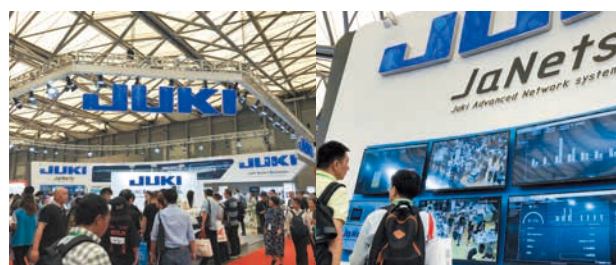
3. 安定した品質、サポートで安心を提供

JUKIには60年以上の活動実績に裏打ちされた豊富な経験のもと、お客様工場が抱える諸問題についての的確にサポートするプロ集団を世界各地に配置。安定した品質や生産性が求められる縫製工場において、トラブル時の対応のみならず、技術指導やセミナー、生産性向上のコンサルティングなど、最強のカスタマーサポートでお客様を支えます。

TOPICS

中国国際縫製設備展覧会 (CISMA 2019) に出展

中国上海新国際博覧中心にて開催された「中国国際縫製設備展覧会 (CISMA 2019)」に、「JUKI Smart Solutions ~Innovation with our Best Global Support~ (JUKIはあなたの工場のスマート化をグローバルにサポートします)」のもと出展しました。生産性・品質を向上させる自動機や、人の作業を補完する高度な自動化・デジタル化技術を盛り込んだ最新鋭の工業用マシンほか、縫製以外の周辺機器も含めた先進的なトータルラインソリューションを提案しました。



2019年9月 中国・上海にて

JUKIが提案するSmart Factory

What is Smart Factory?

見える化 Connected

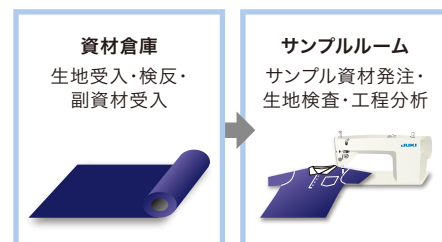
JUKI's Commitment to 3 Solutions:

1. Automatization (自動化)
2. Digitalization (デジタル化)
3. Networking (ネットワーク化)

JUKIは、「見える化」と「Connected」がこれからのスマートファクトリーに欠かせないキーワードだと考えています。そうした考えのもと、お客様工場のスマートファクトリー化を支援するため、JUKIは自動化・デジタル化・ネットワーク化の技術を進化させてまいりました。

JUKIはお客様工場の工程改善や生産性の向上など、60年にわたるプラントエンジニアリング活動の実績があります。この強みを活かし、最新の自動化・デジタル化・システム化の最適な導入方法とその効果をご提案します。

縫製工程の流れ



1. Automatization (自動化)

自動機

人の手によるハンドリング縫製、ハサミでのカット作業、生地の折り曲げ、いせ込みなど、複数工程をフルオート化したミシンを数多く品揃えしています。



自動機・ ピッキングロボット

裁断工程からAGVで搬送された生地を縫製パーツに自動で仕上げます。ピッキングはロボットで行います。



AGV

工場内での縫製パーツの搬送はAGVで自動化します。搬送時間のムダを無くし生産計画に沿った搬送を行います。



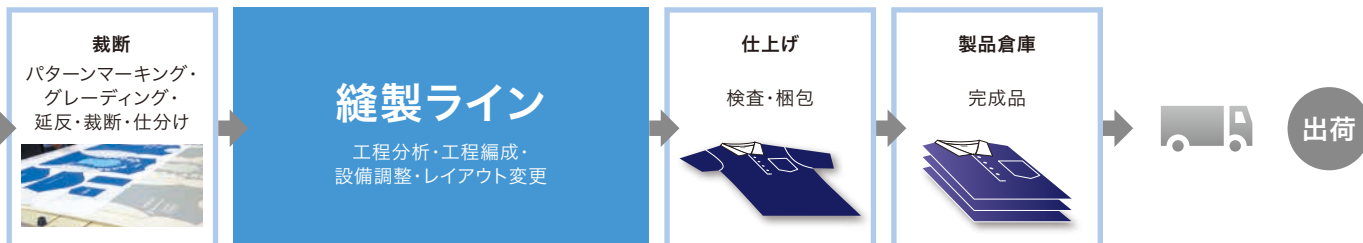
2. Digitalization (デジタル化)

縫製工程のデジタル化

デジタル化された仕様書を見ながら縫製します。ミシンの稼働状況を集約でき、生産進捗やオペレータ毎のバラツキをタイムリーに確認できます。

デジタルミシン

“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶することができるミシン。調整後のデータは専用アプリを入れたタブレットに記憶させることができ、別のミシンへのデータ転送も可能です。これにより従来、勘や経験に頼っていた縫い調整が短時間で行え、縫いデータの共有化・管理が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



JUKIの事業

3. Networking (ネットワーク化)

工場のコントロール室の見える化

生産計画に対する現状の出来高、生産性を左右するラインバランスや、ボトルネック工程が一目で確認できます。さらに工場と工場をつなぎ全社のサプライチェーンの円滑化を進めることができます。また、これらのデータを分析・加工することで工場全体の課題を見える化できます。

縫製管理システムソフト **JaNets** Juki Advanced Network system

マシンをネットワークに繋ぐことで、各マシンの稼働情報などの設備データがリアルタイムで見える化され、そのデータを分析することで改善活動に繋げることができます。さらにデジタルマシンを使うと、システムとマシン間で双方向通信ができるようになり、段取り換えの際に縫いの制御情報をマシンにダウンロードすることもできます。今後は予兆管理やトレーサビリティなど“情報”を活用したサポートコンテンツを増やしていく計画です。



HOUSEHOLD SEWING MACHINES BUSINESS



創造性をサポートするミシンで 趣味力の高いお客様 (Home Sewer) と新たな楽しみの創造

ソーイングを趣味にされている方から、オーダーメイドのテーラーさんまで、個人使用から職業的な用途まで、幅広く活用されているのがJUKIの家庭用ミシンです。JUKI工業用ミシンで培った技術を取り込み、高品質・高機能なハイクラスな商品をご提供しています。

製品のご提供と併せて、機能の活用や作品作りの楽しさを共有していただく「ワークショップ活動」を積極的に実施しています。ソーイングの趣味を細かく分類して、手芸作家の先生とコラボレーションすることで、ミシンソーイングに関する深い知識を提供することができます。

またSNSを活用して、お客様とコミュニケーションを図る中で、さらなるJUKIファン作りを進めています。



Products



ロングアーム高性能
コンピューターミシン
《Kirei》HZL-NX7



2本針4本糸差動送り付き
オーバーロックミシン
MO-114DN



職業用直線ミシン
SL-700EX



家庭用キルト専用
ロングアームミシン
TL-2200QVP

Customer Solutions

1. 確かな製品・技術

ミシンの本質である“縫い目”にこだわり、ワンランク上の“縫い”をご提供します。厚物や段部乗り越え縫いはもちろん、細かい針基線変更や縫製途中でも縫い目の長さや振り幅の調整も簡単かつスムーズに行えます。縫い目をデザインした「キルト」作品も美しく仕上がります。



2. ミシンの機能とソーイング知識をワークショップでご提供

ミシンソーイングの趣味を「洋裁」、「小物・バッグ」、「ドール衣装」、「キルト」など、細かく分類して、それぞれを得意とする作家先生とそれに適したミシンとをコラボレーションし、ミシンの機能やソーイングの知識を深めていただくワークショップを定期的に行っています。



3. 世界を網羅する販売・技術サポート

世界に張り巡らせた工業用ミシンの販売・技術ネットワークを活用してお客様をサポートしています。製品の使い方やメンテナンス方法に加え、ミシンの機構や美しい縫い目の作り方など、様々な講習会を開催し「安心」を提供しています。



TOPICS

第19回「東京国際キルトフェスティバル2020」へ出展

毎年20万人以上の入場者が訪れる世界最大規模のキルトの祭典「東京国際キルトフェスティバル2020」に「JUKIで広がる私の世界」のテーマのもと出展しました。

今回はキルトのミニバッグや本革製のトートバッグのワークショップを中心に、最新鋭のミシン、ソーイングの幅を広げていただくためのアタッチメントなどを紹介しました。



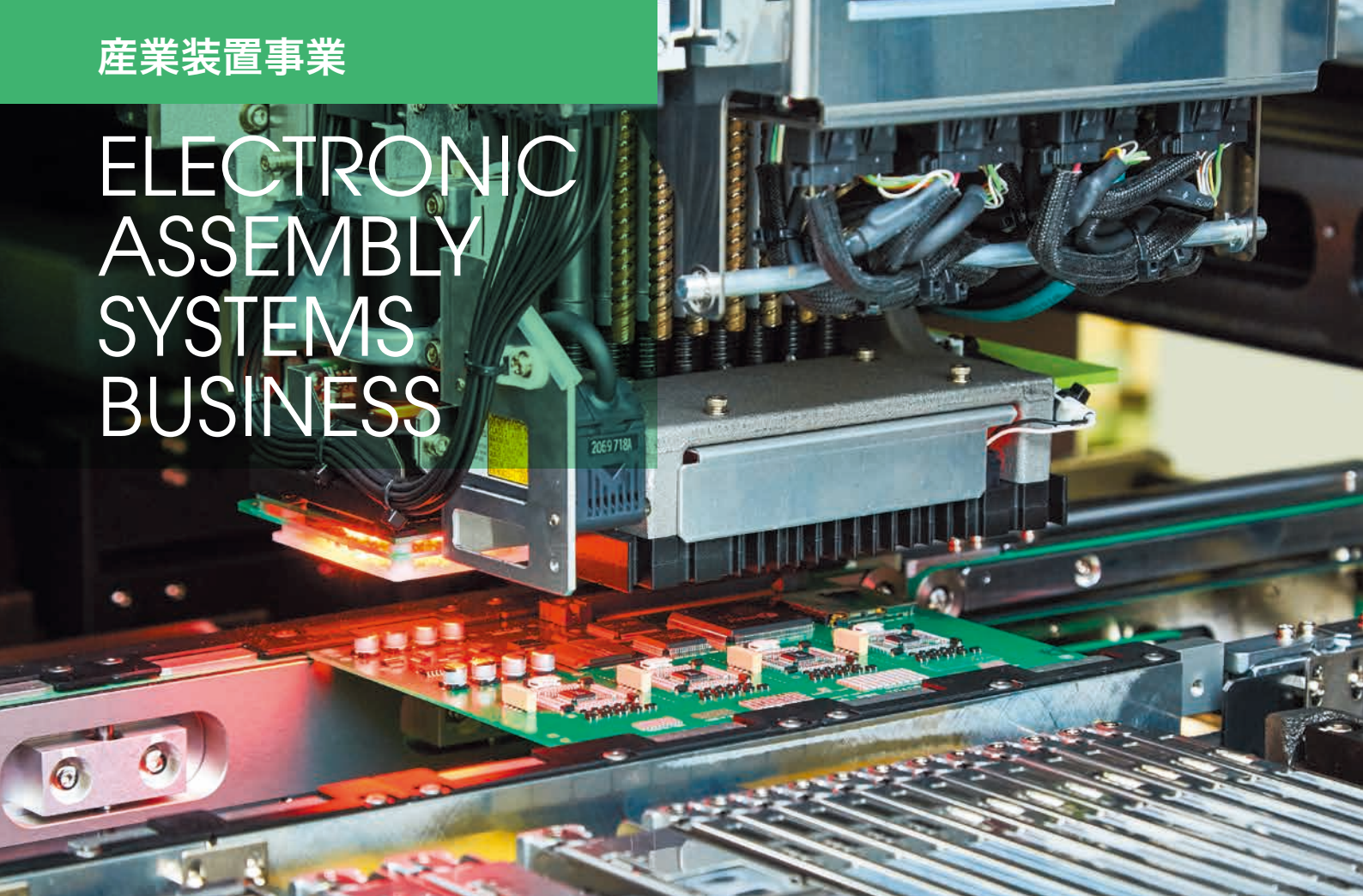
2020年1月 東京ドームにて

SNSを活用した積極的なファンづくり

FacebookとYouTubeを2015年に開設、2017年からはInstagramを開始し、SNSを活用したマーケティング活動を行っています。ユーザー参加型のキャンペーンを通じて、ユーザーと積極的にやりとりを行い、新たなファンの獲得やブランディングにつなげています。2020年2月にはInstagramのフォロワー数が2万人を突破しました。



ELECTRONIC ASSEMBLY SYSTEMS BUSINESS



Products



高速スマートモジュラー
マウンタ
RS-1R



高速コンパクトモジュラー
マウンタ
RX-7R



3D基板外観検査機
(AOI)
RV-2-3DH



マルチタスク
プラットフォーム
JM-100



インテリジェント
ストレージ管理システム
ISM3600



産業装置の製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点

- JUKIオートメーションシステムズGmbH.
- エセジオートメーション(有)

東京重機国際貿易(上海)有

● JUKI産機テクノロジー(株)

● JUKIオートメーションシステムズ(株)

JUKIオートメーションシステムズINC.

● JUKISMT アジア(株)

● JUKIインド(株)
SMT本部

基板生産工場を トータルソリューションでサポート

私たちの日々の暮らしに欠かせないあらゆる“製品”の中に組み込まれ、その製品の頭脳の役割を担うのが「電子回路基板」です。スマートフォンや家電製品、車や電車などの乗り物、オフィス、病院、工場内の装置まで、様々な製品に使われています。

JUKIは、基板生産装置の総合メーカーとして、お客様ニーズを捉えた基板生産装置のラインアップや、装置と連動して電子部品を収納・供給する自動倉庫や無人搬送装置、ロボット挿入システムなど、最新技術を駆使した装置をご提供しています。

JUKIが目指すのは、お客様の製造ライン全体、またフロア全体での生産性を向上させるための“トータルソリューション”のお手伝いです。装置をネットワークで結び、生産の進捗や設備の稼働状況などをリアルタイムで表示させる「生産の見える化」システムにより、より高い次元の工場へと進化させることができます。

JUKIはIoT、M2M、AIなどの最新技術を活用して、お客様工場のスマート化をお手伝いします。



Customer Solutions

1. 柔軟なライン構築ができるフルラインアップ製品

基板を生産するための装置をフルラインアップしています。生産スピードと高汎用性を兼備したマウンタや、不良基板の流出を防ぐ高速3D検査機、はんだの塗布を高速・高品質で行う印刷機など、多品種少量生産、変種変量生産など、柔軟なライン構築ができます。



2. 工場全体の生産の管理・向上をサポート

基板生産のための部品受け入れから完成品出庫まで、装置やシステムを活用して、工場全体の改善や生産性向上のサポートや省人化など、トータルソリューションのお手伝いができます。手作業の自動化、部品管理の自動化、生産計画の達成に貢献するシステムソフトなどで工場全体をサポートします。



電子部品を保管管理する自動倉庫

3. リモートコントロールサポート

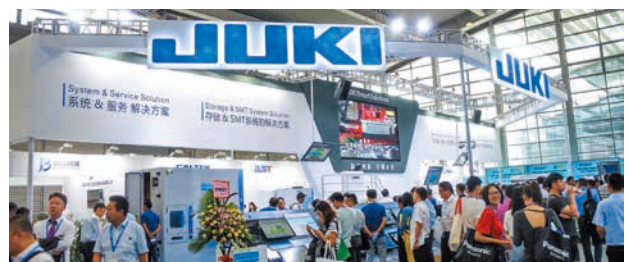
リモートでライン全体のモニタリングを行い、生産ラインの障害をいち早く発見して復旧につなげます。さらに、蓄積した情報を解析することにより、安定稼働状態の維持に加え、ライン全体の生産性の向上や品質の向上につなげることができます。リモートコントロールによるサポートで、より高い次元でのスマート化に貢献します。



TOPICS

「NEPCON Asia 2019」に出展

エレクトロニクス製造業の国際展示会「NEPCON Asia 2019」に出展しました。今回は「JUKI Smart Solutions 未来へ導くものづくりイノベーション」をテーマに、ロボットや画像認識を駆使した自動化技術と、最新のIoT・M2M技術を融合させた装置やシステムで、SMT工程から前後工程、工場管理、検査工程まで、お客様の工場をスマートファクトリーの未来へ導く各種最新ソリューションを提案しました。



2019年8月 中国・深圳にて

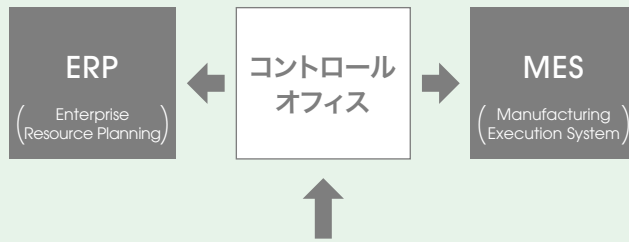
産業装置事業

基板生産工場の設備とシステムの融合により 工場全体がつながるJUKIのトータルソリューション

JUKIのSmart Factory提案

実装統合システムソフト **JaNets** Juki Advanced Network system

マウンタや自動倉庫、他装置をつなげた実装ラインの生産管理はもとより、お客様の基幹システムとの連携により、フロア全体での生産性の向上を実現します。



部品誤装着防止

ライン管理 トレーサビリティ

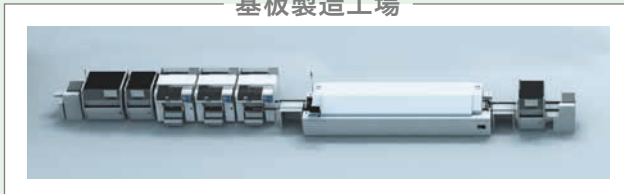
JaNets

Juki Advanced Network system

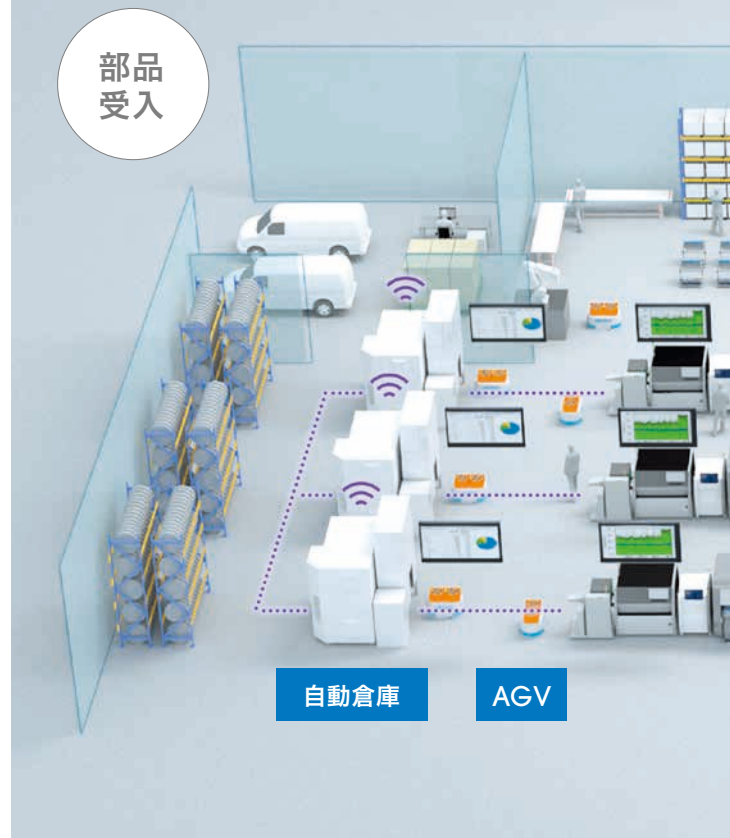
設備間連携 外部出力機能

設備稼働状態 (ライン)	設備稼働状態 (マシン)	設備稼働状態 (ISM)
不具合解析	生産進捗	設備稼働分析
在庫管理	設備保全	リモートサポート

↓ ↑
基板製造工場



基板生産工場



実装システムソリューション

JUKI独自の機構を搭載した印刷機、検査機、チップマウンタ、汎用マウンタをフルラインアップしています(リフロー除く)。搭載する電子部品の高さに応じてヘッドの部品認識センサーの高さを可変させ、ヘッド交換を不要にしたマウンタなど、幅広いラインアップで、変種変量生産をはじめ、実装ラインの生産性向上に貢献します。



JaNetsを活用したIoTイノベーション

Juki Advanced Network system



JUKIの事業

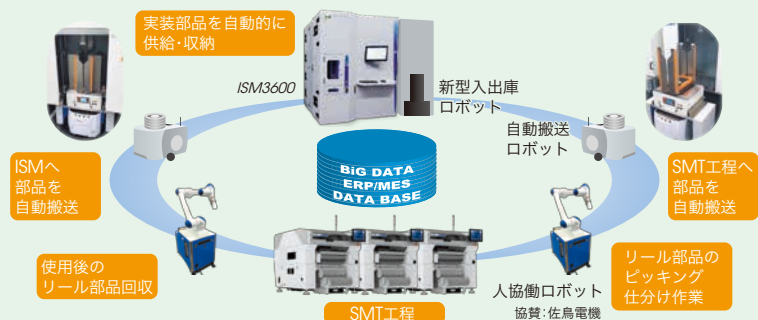
後工程自動化システムソリューション

従来人手で行っていた部品挿入工程を自動化する装置です。リード部品のリード先端を正確にセンタリングし、確実な挿入を実現します。



ストレージシステムソリューション(部品供給管理効率化)

実装ラインと連動させ、人手で行われている実装部品の供給管理業務を自動化する仕組みです。部品を自動的に供給・収納する自動倉庫や、自動倉庫から部品を搬送するAGV、リール部品をピッキングする人協働ロボットなどを活用することにより、作業効率、生産性を飛躍的に向上できます。



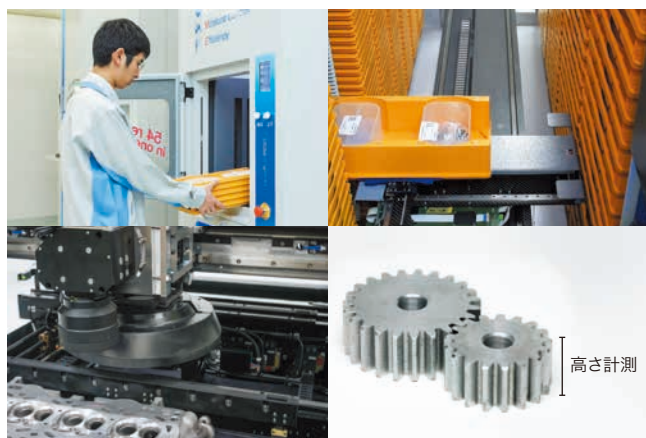
産業装置事業

基板製造工場のスマート化技術を他業界に展開 自動倉庫、検査・計測システム

JUKIは、「プリント基板」を製造するための実装関連装置メーカーとして、30年にわたる事業実績があります。

培ってきた自動化技術や画像処理技術、IoTを活用して、他業界のお客様の自動化をサポートさせていただき事業領域の拡大に取り組んでいます。

近年多くの業種で課題となっている人手不足、技能人材不足による自動化・効率化ニーズに、部品や商品の在庫管理や入出庫を自動化するストレージシステムや、技能者が手作業で行っている検査作業を自動化する検査・計測システムなど、イノベティブなソリューションでスマート化をお手伝いします。



Customer Solutions

1. 自動倉庫システム

(インテリジェントストレージ管理システム)

部品や商品の入出庫を自動化する倉庫管理システムです。IoTを活用して、ERP、MESとのシステム連携が可能で、在庫管理や、現場と連携したタイムリーな入出庫がリアルタイムにできます。湿度やセキュリティも保たれ、また手作業によるピッキング・搬送作業などの前後工程も含めて自動化できます。



2. 検査・計測システム

熟練技能者が目視で検査をしている部品の検査や計測作業を自動化する検査システムです。3次元、2次元の画像処理技術により高速、かつ高精度に傷の検査や寸法の計測を行います。インラインでの全数検査により、不良の流出を防止し、また検査結果はデジタル化され、トレーサビリティにつながられます。



TOPICS

自動倉庫の製造・開発・販売を行う

ESSEGI AUTOMATION S.r.l.への出資と協業強化

ESSEGI AUTOMATION S.r.l.(エセジオートメーション(有))へ出資(出資比率49%)するとともに、自動倉庫における企画・開発を通じた技術力の融合から、製造・販売・サービスに至る事業全体での協業を強固なものにしました。

自動倉庫は部品や商品の在庫管理や入出庫を自動化できる装置です。電子部品の他にも多様な分野での活用が可能であり、同社との協業により自動倉庫事業の更なる強化・加速を図ります。



(株)XTIAと「外観検査機」における技術提携を発表

「光コム」の原理を産業応用に成功させたXTIA(クティア)へ出資及び技術提携を行い、基板の検査用途として活用してきたJUKI外観検査機と融合させ、機械部品などの検査を行う「3次元ハイブリッド外観検査機」の製品化を2020年度中に行うことを発表しました。



XTIAに出資した3社を含めての4社共同記者会見(左から2番目がJUKI)

グループ事業

GROUP BUSINESS



JUKIの事業

Products (受託開発・製造事業)



受託製造パーツ例



分光測色計「AY555」



鋳物スピーカー
(サンプル製造)

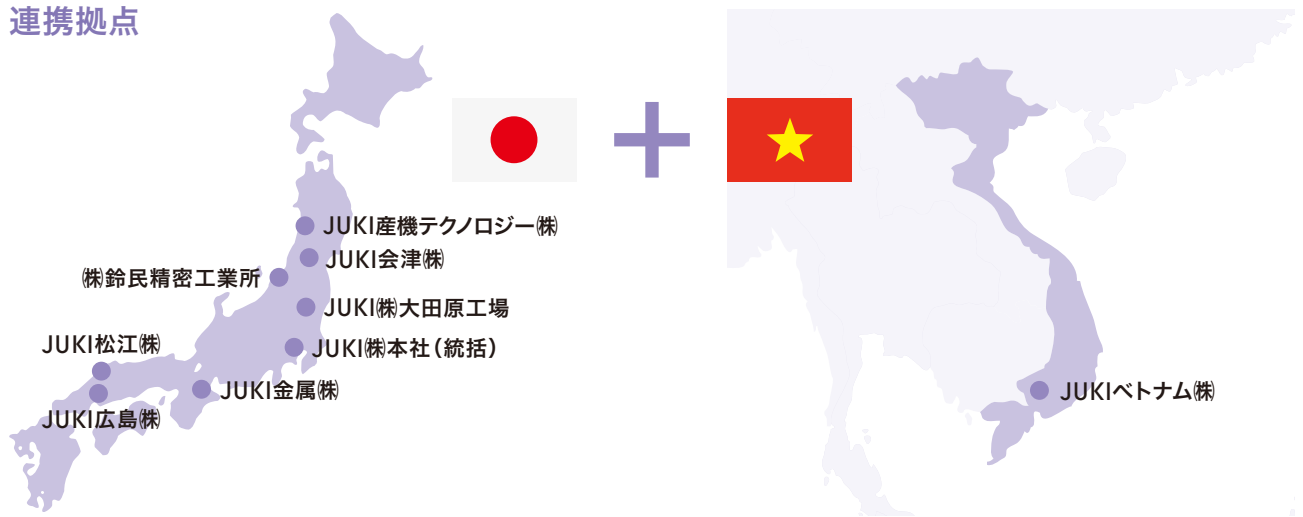


シール貼りロボット



小型マシニングセンタ

連携拠点



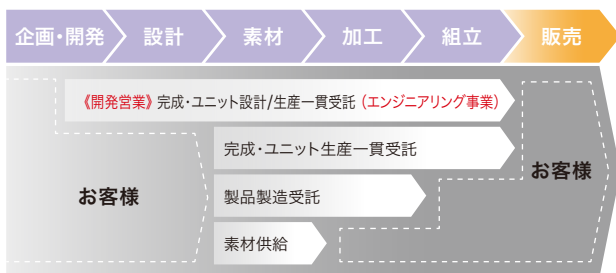
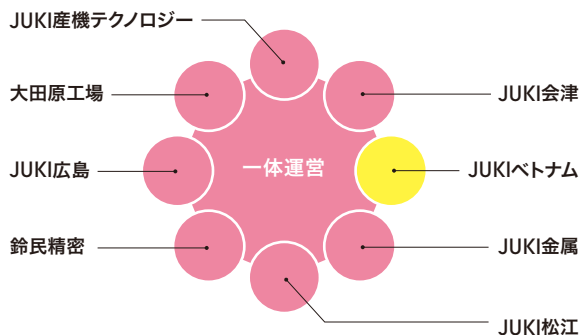
グループ事業

受託開発・製造事業

「技能者」+「開発・製造装置」
+「開発・生産ノウハウ」
+「材料」の4つの総合力で
製造業のお客様をサポート

製造会社のものでづくり力を結集させた事業です。主要製品である工業用・家庭用マシン、マウンタの開発・開発から部品製造、製品組み立てを行う中で育まれた開発力や精密加工、プレス・板金加工、鋳鉄铸件、精密鋳造、金型製造など、幅広く高度なものでづくり力を有しています。

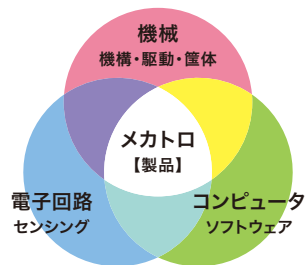
JUKIのグループ事業はそれらのものでづくり技術を深化・組み合わせし、お客様が望まれる部品やユニット製品として具現化する事業です。



Customer Solutions

1. 機器制御の開発・設計が可能

マウンタの開発・設計で培った技術を基に、機器制御の開発・設計が可能です。機械工学・電子工学・ソフトウェアの分野から多彩な人材が集まり、柔軟な発想力で製品を生み出します。



2. 製造の自動化装置、ラインの構築 (エンジニアリング)

IoTやロボット化など、自社工場のスマート化を進めてきた生産技術の実績をベースに、重労働作業や単純反復作業のロボット化や、生産性の高いラインへの改善や生産の見える化など、ハード・ソフトの両面から課題解決をサポートします。



3. 「人・設備・方法・材料」をフル活用して、付加価値の高い製品を提供 (材料→加工→組付け→完成品)

各種国家資格を保有している技能者がMC・鋳造・研磨・塗装など多種多様な技術を駆使して、お客様のニーズに適したマルチセレクト製造で製品を完成させます。資材調達・製造・組立まで、すべての工程をワンストップで提供します。



TOPICS

第24回「機械要素技術展」へ出展

精密加工技術やものでづくりの最先端技術を一堂に集めた専門技術展「機械要素技術展」に、グループ事業と産業装置事業が共同で出展しました。

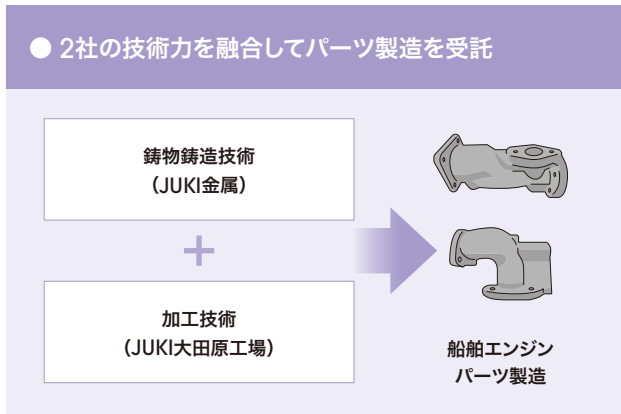
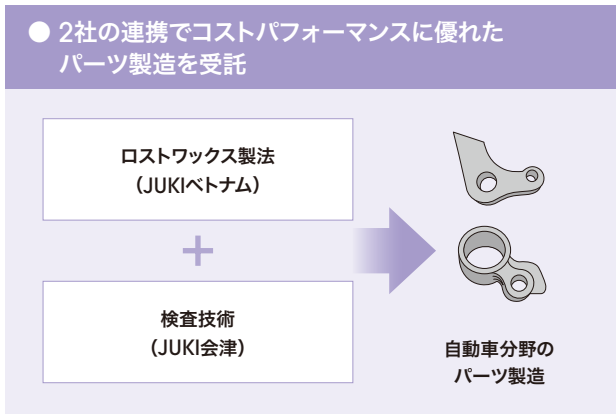
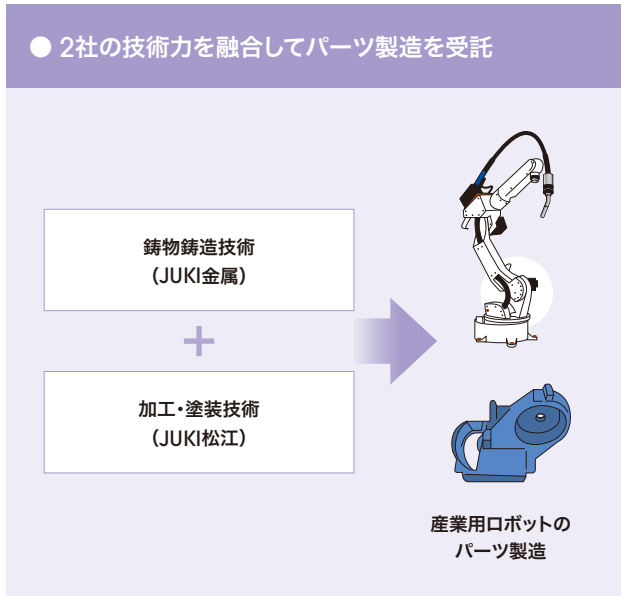
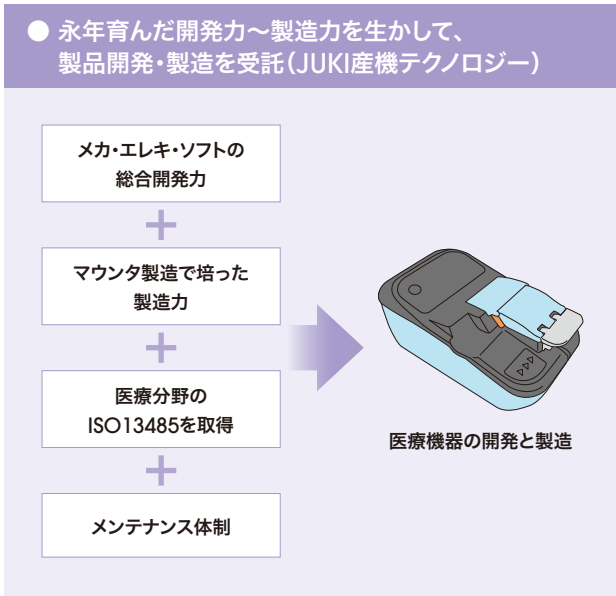
JUKIは、「生産力、提案力、技術力“JUKIの受託製造・受託開発”」をテーマに、JUKIの開発・生産力とグループの連携体制、実際の製造に使用している検査機のデモ展示を実施。また、工業用マシンで培った技術を見ていただくマシンエリアを設置し、JUKIの幅広く高度なものでづくり力をアピールしました。



2020年2月 千葉・幕張メッセにて

各拠点の開発・製造技術を融合した受託製品事例

JUKIのものづくり技術を生かして受託した部品・ユニット製品の事例



スリープバスター ドライバーの 安全な走行をサポート

スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。

運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常時とらえ解析。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変(入眠予兆信号等)を画面と音で警告します。さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。



データエントリーシステム 情報処理に特化した JUKI独自のシステム

データエントリーシステムは、数値や文字などの大量のデータをスピーディに入力できるように工夫された装置です。

生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージエントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。



JUKIの事業

CUSTOMER BUSINESS



世界中のお客様にマシンの最適な稼働状態を提供し 一歩先の安心をお届け

JUKIの主力事業である工業用マシンと産業装置のお客様に、ご購入いただいた製品を最適な環境でご使用いただけるように、タイムリーな保守点検のご案内やパーツ供給、マシンのリモートコントロールを通じて、お客様のサポートを行う事業です。

工業用マシンにおいては、消耗部品の交換時期や点検時期のお知らせなど、お客様で予防保全の情報が簡易に取得できるツールを用意しました。

産業装置においては、休みなく動くマシンをリモートでモニタリングします。

しっかりとしたパーツ供給とメンテナンスに加え、一歩先の安心をお届けします。



Customer Solutions

1. 縫製機器の点検サポートシステム

突然のマシントップによるミシンの稼働率低下に備えて、JUKIではスマートフォンなどの通信機器専用アプリに、マシン1台1台の必要な情報を入力するだけで、そのマシンに関する消耗部品や点検方法の情報をお客様に提供するシステムを新たにリリースしました。登録した各ミシンの消耗部品の交換時期や保守点検の要否がアプリ上に表示され、それらのデータを集約することで、計画的な予防保全に役立てることができます。JUKIでは、ご購入いただいたマシンを長く安定してお使いいただくため、お客様のサポートツールを拡充させています。



2. リモートによるカスタマーサポートを実現

生産ラインや設備の稼働状況を把握し、解析・改善のためのデータ収集ツール

マシンの稼働時間が長い産業装置では、お客様に代わりリモートでライン全体のモニタリングを行うことができます。生産ラインの障害発生をいち早く発見して復旧につなげるとともに、モニタリングし蓄積した情報を解析することにより、安定稼働状態の維持に加え、ライン全体の生産性の向上や品質の向上を図ることができます。

JUKIはリモートコントロールによるサポートで、より高い次元でのスマート化を実現します。



TOPICS

新しい在庫発注管理システムにより、 パーツの即納率が向上

パーツの提供に関して、お客様をお待たせしないためには、在庫効率を最適化する必要があります。

JUKIではパーツの即納率向上のために、新しい在庫発注管理システムを導入し、在庫効率を最適化した結果、即納率が90%まで向上しました。オンラインで提供している会員制の技術情報サイト「技術サポートwebサイト」や、工業用ミシンのパーツサイト「Club-J」の運用と併せ、さらなる即納率の向上に取り組みます。



(上) 技術者向け情報サイト
(下) 工業用ミシンのパーツサイト



「お客様第一主義」を実践する 高度な技術開発力



お客様が求められる生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上、省スペース化などの課題にお応えするため、製品単体の開発のみならず、自動機・自動化システムに取り組んでいるのがJUKIの技術開発です。リーディングカンパニーとして、多くの「世界初」の機構を生み出してきています。

最新の技術の追求と合わせて開発のベースになるのは、製品の使いやすさや、省電力などの環境配慮です。1日中稼働するからこそ、ストレスなく使っていただける製品を作りたい、JUKIのミシンは工場の管理者のみならず、現場の使用者からも圧倒的な支持を得ています。

また、海外のお客様のニーズにスピーディに対応するため、中国、ベトナム、アメリカ、ポーランドにも開発拠点を設置し、ハイレベルな要求にきめ細かく対応しています。

TECHNOLOGY & DEVELOPMENT

国内開発拠点



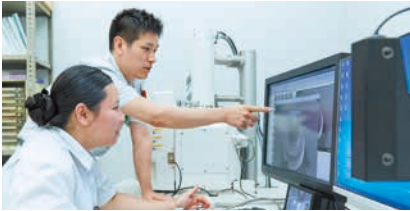
海外開発拠点



JUKIの技術開発

JUKI製品の多くは生産財のため、世界中のどんな環境下でも安定して稼動することが求められています。

JUKIでは、強度や安全性、耐久性などに問題が発生しないように、3次元CADや最新の試験設備を使い、力、熱、振動、電磁放射など、いろいろな物理現象を仮想的に発生させて評価する実験を繰り返しています。



電子顕微鏡での材料研究



EPMAでの元素分析



ビッカース硬度計での硬さ試験



静電試験器を使ったテスト



加振機を活用しての振動試験



製品梱包落下試験



チップマウンタの耐久試験



工業用ミシン縫いテスト



半無響室での騒音評価

TOPICS

「工業用ミシン」基本機種8製品のデジタル化が完結

「縫い目」の調整値を数値化し、ミシン本体のパネルから容易に設定ができる「デジタルミシン」の開発が完結しました。デジタル化が完結したのは、本縫いミシンの基本機種8製品で、調整後のデータは非接触でデータ転送や編集ができ、縫製アイテム変更時の段取り替え時間が大幅に短縮できます。製品名称を「ソーイングシステム」として、専用アプリの活用により、生産高、稼働率などを把握でき、生産バランスなどの解析に役立てられます。



デジタル化した「ソーイングシステム」ミシンは、同色をあしらい統一感を出した

世界で唯一の「3次元ハイブリッド検査機」の開発を開始

プリント基板用の検査機を、機械部品などの検査用途に拡張するため、(株)XTIA(クティア)とアライアンスを組み開発を開始しました。JUKIの「画像処理技術」と同社の「多波長かつ直進型レーザ技術」を融合させ、高い検査精度と検査速度で、インライン検査を実現する装置です。JUKI画像処理技術では傷などの高さ・深さを判定することが難しく、同社のセンサではシミなどの外観不良を発見できないため、お互いの技術を補完して製品化を目指します。



ノーベル賞受賞「光コム」技術を融合(アライアンス)



3次元ハイブリッド外観検査機のプロトタイプ

技術開発力

JUKIのコアテクノロジー

JUKIのコア技術は、品質を安定させる、使いやすさを追求する、作業性を向上させる、消費電力を削減するなど、製品に直結した技術の数々です。多様化・高度化する市場ニーズを的確にとらえ、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる機能を生み出しています。

工業用ミシンのコア技術

デジタル制御

縫い目調整のデジタル化とIoTを活用したデータ転送

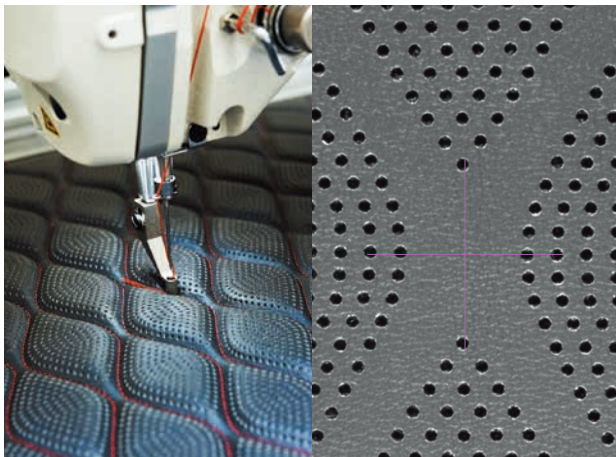
従来、勘や経験に頼っていた送り歯高さ、送りピッチと軌跡、押え圧、上糸のテンションの5つの“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶できるようにした技術です。調整後のデータは専用アプリを入れた通信機器に記憶させることができ、近距離無線通信NFC機能により、パネルにかざすだけで別のマシンへのデータ転送を可能にしました。縫製ラインのミシンの設定が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



DDL-9000Cのデジタル制御

画像認識技術(マシン)

生地の寄り量とプログラムデータとのずれを画像処理にて補正
パーフォレーション生地など、柔らかく伸び縮みする生地に対して、縫うことにより生じる生地の寄り量を生地上の目印となる部分からカメラで測定し、基本となるプログラムデータとのずれ量を算出・補正した後、次の縫い目を確実に目標とする場所に形成することで、質の高い安定した縫い目を実現できます。



AMS-251の画像認識技術

アクティブテンション

安定した「縫い」を実現するため糸の張力を動的に制御

上糸と下糸の張力を絶えず最適化し、美しく安定した縫いを実現する技術です。特殊なソレノイドを電流で微細にコントロールすることで糸調子皿を開閉させ、最良の糸調子を生み出します。厚地・薄地・伸縮などの素材変化による制御、縫いトラブルの防止、模様縫いの制御など、多方面で活用しています。

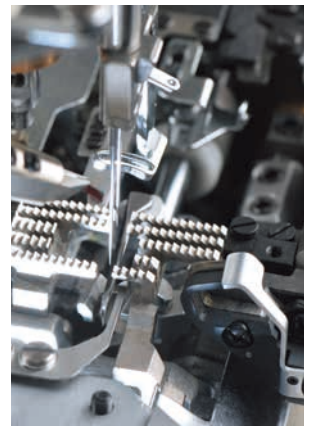


AMSにおけるソレノイド制御

ほつれ防止技術

縫い終わりのほつれを阻止するため糸結びを作る

縫い終わりに結び目を作る技術です。機構の違いは多少ありますが、JUKIの多くの製品に搭載されています。偏平縫いマシンにおいては、針糸を専用のフックで斜めに引いてループを作り、そこに針を落とすことにより擬似的な結び目を作ります。専用フックの待機位置、針停止位置などの最適化を図り、タイミングを制御しています。



MF-7900における結び目を作る機構

鳥の巣防止・残短技術

糸摘み作業をなくし、生地裏の縫い品質を向上

縫い始めに糸が鳥の巣状態になるのを防止し、縫い終わりの糸を極限まで短く切断する技術です。縫い始めに上糸を糸摘み装置で捕捉し、これを縫い終わりまでキープします。縫製完了後、通常の糸切り動作の後、残短用のメス機構で縫い終わりの上下糸、縫い始めの上糸を短く切断し、残糸は吸引します。



LK-1903BBIにおける残短機構

その他のコア技術

送りの上下駆動

ドライ技術

省エネルギー技術

パーフェクトステッチ

家庭用ミシンのコア技術

内蔵上送り機構

薄地・厚地の“送り”を 確実にする技術

先引き上送り機構とデジタル制御上送り機構により、縫いずれ、縫い詰まりを防止する技術です。上送り量を制御する専用のステッピングモーターを搭載することで、布種、布枚数、縫い模様に合わせて、上送り量のデジタル調節を0.1mm単位で行えます。



HZL-NX7

自動糸調子

模様の種類に応じた 上糸の張力を実現

上糸の張力を、縫い模様に応じて自動調整する技術です。振り幅、送り量から決定した圧力を、内蔵された縫い模様数351種類と文字模様のそれぞれに対して、上糸に最適な糸張力を与えます。専用のステッピングモーターを搭載することにより、糸調子カムの回転角度をデジタル制御しています。



HZL-NX7

その他のコア技術

ボックス送り

完全自動糸掛け(イージースレッダー)

自動押え上げ

スライド針板

フロートモード

ピボット機能

産業装置のコア技術

匠ヘッド(マウンタ)

高速性と汎用性を両立

搭載する部品の高さに応じてヘッドを固定したままレーザ認識装置のみを上下動させる技術です。部品認識・搭載を最適な高さで行うことができ、高速搭載を実現しました。これにより部品の高さに応じたヘッド仕様は1種類となり、高速性と汎用性の両立を実現しました。

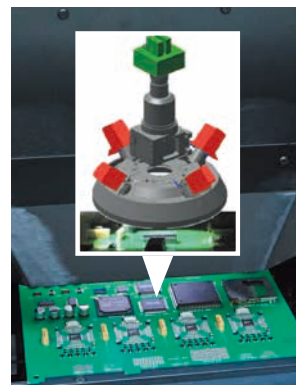


RS-1R、JM-100の匠ヘッド

検査機の高速画像処理システム

DLP方式投影装置で 鮮明に撮像

プリント基板上に部品が正確に搭載され、ハンダ接合しているかを3Dで検査する技術です。投影・撮像を行う3DヘッドユニットにDLPプロジェクターを4方向に配置し、32パターンの縞模様の光を部品に投影することにより検査精度が向上しました。投影速度の高速化、撮像データの取り込み、演算処理の高速化により、高速で鮮明な検査を実現します。



RV-2-3Dの画像認識

JUKIの価値創造

プラネットヘッド(マウンタ)

独自技術の回転型ヘッドで、 小型部品の高速搭載を実現

プラネットヘッドは回転型ヘッドのことで、ヘッドが回転しながら部品を吸着・搭載できるJUKI独自の技術です。部品の吸着、搭載、位置決めを同時に行うことができ、小型部品を高速で搭載することができます。ヘッド全体が回転するとともに、16個のノズルを自転させることができる独自の機構です。

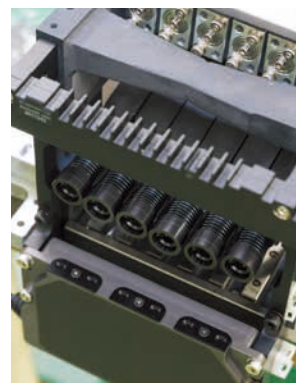


RX-7R に搭載されたプラネットヘッド

レーザ認識技術(マウンタ)

独自技術により、 様々な形状の部品認識が可能

高い分解能をもつ認識ユニットをヘッドに装備し、部品に光を当て影を読み取ることで、部品の位置と角度を認識できます。これにより幅広い部品に対して安定した高精度搭載が可能で、搭載直前までの部品の吸着状態が検出できるため、部品の有無や吸着姿勢が検出しにくい極小部品などの搭載不良を防止できます。



RS-1Rのレーザ認識技術

その他のコア技術

画像認識技術

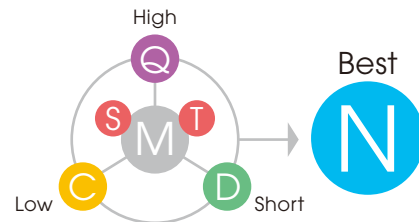
部品ベリフィケーション(CVS)



「100%良品生産」を堅守する made by JUKI のものづくり



「JUKI品質」を堅守し、ものづくりのさらなる進化に取り組んでいるのがJUKIの製造工場です。そのベースになっているのが、〈Q〉品質、〈C〉コスト、〈D〉納期、〈S〉安全、〈T〉人材育成、〈N〉新製品の「生産の六要素」です。六要素をもとに、人〈M〉を中心に管理のサイクルを回し、継続した改善活動でレベルアップを図っています。



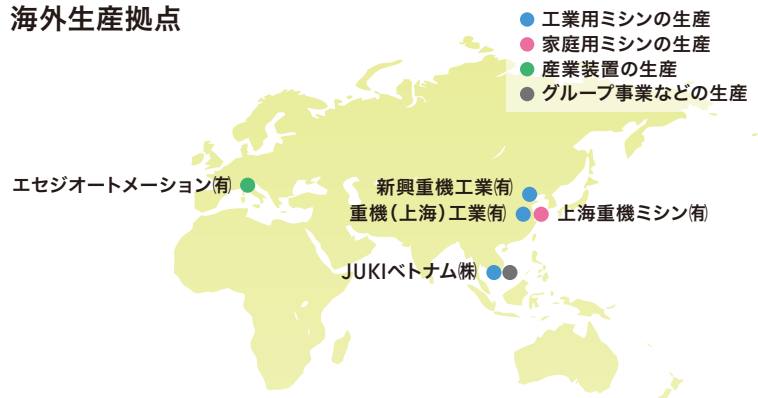
工業用ミシンの生産は、「お客様に近いところで造る」を基本に、日本・中国・ベトナムの合わせて5工場で製造しています。マザー工場である「大田原工場」で生み出された製造方法や製造工法、ノウハウなどが、グループ工場で共有化され、“made by JUKI”の製品を生み出しています。

産業装置の生産は、JUKI産機テクノロジー(株)が担っています。フレキシブルな工法開発と改良に取り組みながら、確固たる品質の製品を世界に送り出しています。

国内生産拠点



海外生産拠点



- 工業用ミシンの生産
- 家庭用ミシンの生産
- 産業装置の生産
- グループ事業などの生産

JUKIの生産力

1. デジタル生産

大田原工場(工業用ミシンの生産)とJUKI産機テクノロジー(産業装置の生産)では、組付けの手順がセルごとにタブレット画面で指示されるデジタル生産を導入。短期間での作業習熟や誤組み付け防止とライン編成ロスの削減を可能にし、安定した生産体制を確立しています。



2. 技能士育成と品質教育

ものづくりの原点は「人」づくりです。技能資格取得の推進や品質管理教育、社内検定などを駆使して、品質・コスト・納期の維持・向上に継続して取り組んでいます。また、海外工場の将来を担う人材への教育を定期的を実施。マネジメント教育を学んだ人材がJUKI品質を根底から支えています。



3. 魅せる工場への取り組み

「5S+安全+QCD」をベースに、ロボット化・デジタル化を通じて、スマート工場への取り組みを進めています。デジタル生産に加えて、フレーム加工、切粉のブロー除去、塗装のそれぞれの工程でのロボット化に加え、工程間の自動搬送システムなど、ITを活用した生産性の高い工場へと変革を進めています。



TOPICS

工業用ミシンの生産に人とロボットの協働組立を導入

大田原工場は、AGVを活用したタクト生産を行っているLKの組立ラインに、“注意・警告を促すシール”を貼るためのロボットを導入し、人作業とロボット作業の協働組立を実現しました。工業用ミシンの組立では人作業(官能作業・調整作業)と機械的な単純作業に分けられます。単純作業をロボットが担うことにより、省スペースでフレキシブルな生産ラインを実現できます。



注意・警告を促すコーションラベル付けロボット(大田原工場)

マウンタ生産におけるラインバランスの見える化

JUKI産機テクノロジーの3工場にて工程を分散して行っているマウンタ生産の同期化を進めています。本社工場では総括組付けラインにAGVを活用したタクトコントロール生産を導入し、その生産進捗に同期して、前工程で組立てたユニットや大仙工場や吉野工場で作られた部品が供給される仕組みです。生産の進捗と実績も見える化し、ラインバランスの維持管理と工程改善につなげています。



AGVを活用したタクトコントロール生産(JUKI産機テクノロジー)

生産力

主要工場の紹介

工業用マシン、家庭用マシン、産業装置の生産を行う主要工場です。
生産の六要素を軸に100%良品を生み出すmade by JUKIのものづくりを行っています。

JUKIベトナム



工業用・家庭用マシン、グループ事業製品の製造

工業用マシン、家庭用マシンの製造の他、工業用マシンの開発やグループ事業も担うJUKIーの大型ものづくり工場。部品素材・加工・熱処理・塗装・組立まで、一貫生産が可能な拠点です。

重機(上海)工業



工業用マシンの製造

本縫いマシンをはじめ、ニット用、ノンアパレル用マシンなど、幅広い種類のマシンを製造し、生産台数・金額ともに、工業用マシン全体の3割を生産する主要拠点です。

ものづくりの特長

QCDMS

「QCDMS 全てにおいて信頼される工場を目指そう」を合言葉に日々生産・改善活動に取り組んでいます。



ものづくりの特長

SCMの取り組み

安全在庫の適正化、輸送手番の短縮、受入検査の1ゲート化を展開し、リードタイム短縮、工場内在庫削減に取り組んでいます。



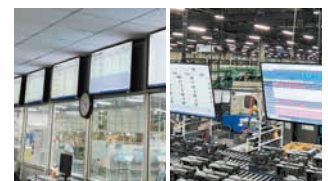
スマート化への取り組み

「見える化」「同期化」「自動化」をキーワードに、品質維持と生産性向上に取り組んでいます。



スマート化の取り組み

自動搬送を「層別自動搬送」へと改善し工程間を巡回させています。加工、塗装、組立、完成と工程ごとの出来高、在庫量が一目で確認ができるシステムを活用して、早期改善に取り組んでいます。



人材育成の取り組み

キーマン（組織を正しい方向に導ける人）を重点的に育成するため、各職場より選出された人材に対し、外部教育や内部講師による教育を実施しています。



人材育成の取り組み

多種多様な量産機種を生産していることを生かし、多能工化の育成に取り組んでいます。



JUKI (VIETNAM) CO.LTD

設立年：1995年
従業員数：1,430名
場所：TAN THUAN EXPORT PROCESSING ZONE, TAN THUAN DONG WARD, DISTRICT 7, HO CHI MINH CITY, VIETNAM



重機(上海)工業有限公司

設立年：2000年
従業員数：614名
場所：中国上海市嘉定区興平路435号

上海重機ミシン



家庭用ミシンの製造

家庭用ミシンのマザー工場として、コンピューターミシン、ロックミシン、職業用ミシンなど、主要なJUKI家庭用ミシンを製造。生産活動を通じて、安心の品質・満足をお届けしています。

JUKI産機テクノロジー



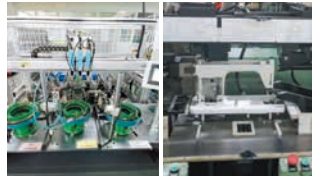
産業装置、グループ事業製品の製造

産業装置の基幹工場として、チップマウンタをはじめとしたトータルライン製品を製造。吉野・大仙・本社の3工場連携により、受注・開発・資材調達・生産技術・製造・品質保証・納品までの一気通貫体制を整えています。

ものづくりの特長

スマート化への取り組み

ロボット化やデジタル化を通じて省人化に取り組んでいます。また、フレーム搬送のAGVの活用やメタル圧入・部結作業の自動化、製造記録の自動測定を進めています。



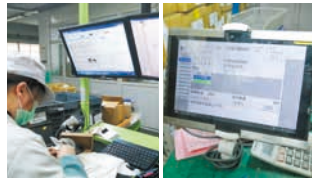
製品梱包の自動化

製品梱包も自動化しています。製品識別・ボカミス防止にも繋がります。



受入れ検査のスマート化

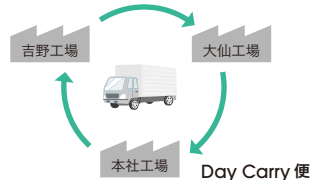
検査データのデジタル自動取り込みを行い、誤入力の防止やトレーサビリティの向上につなげています。部品出庫はITを取り入れた業務を進めています。



ものづくりの特長

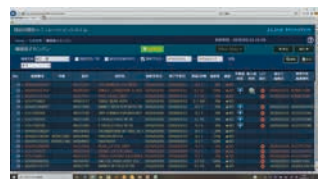
工場連携による同期化生産

前工程（機械加工、板金加工、基板実装など）の製造リードタイムを徹底的に短縮し、後工程が必要な時に必要な分を供給する同期化生産を実施しています。



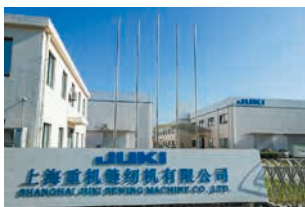
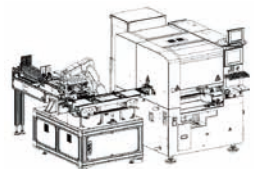
SCM 改革と見える化

同期化生産の実態をモニターで日々モニタリングしています。生産遅れや調達品の欠品にフラグを立て、初動対応の早期化を実現しています。



グループ事業の製造

FA関連機器や医療関連機器をはじめとした、様々なメカトロ製品を製造。高難度のエンジニアリング装置の製造受託もしています。



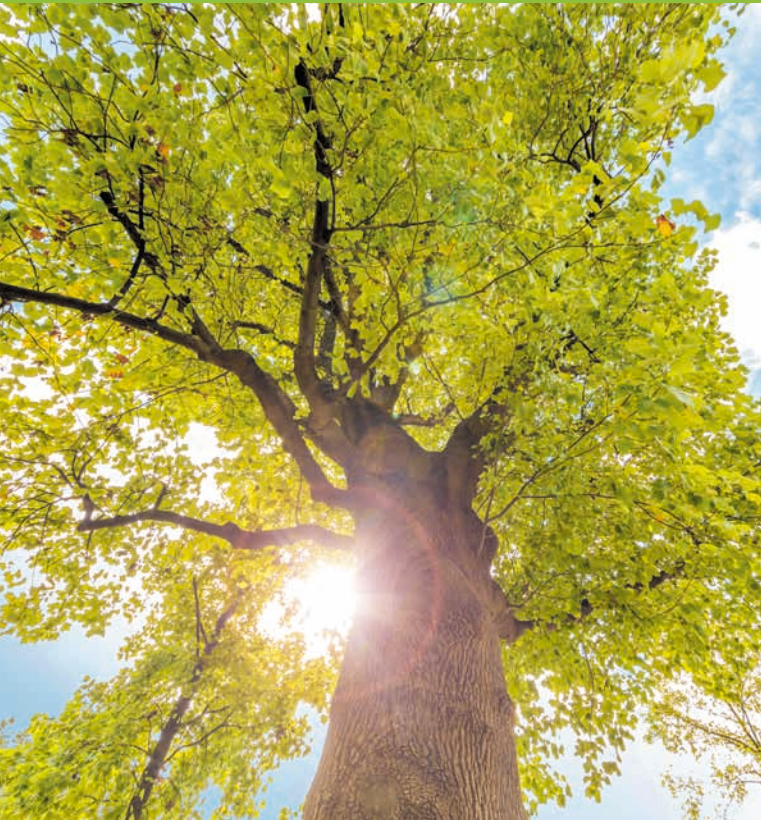
上海重機ミシン有限公司

設立年：1990年
従業員数：245名
場所：中国上海市松江区
洞泾鎮漁洋浜村洞薛路580号



JUKI産機テクノロジー株式会社

設立年：1973年
従業員数：583名
場所：秋田県横手市増田町増田字
石神西70



SDGsの取り組み ～持続可能な社会に向けて～

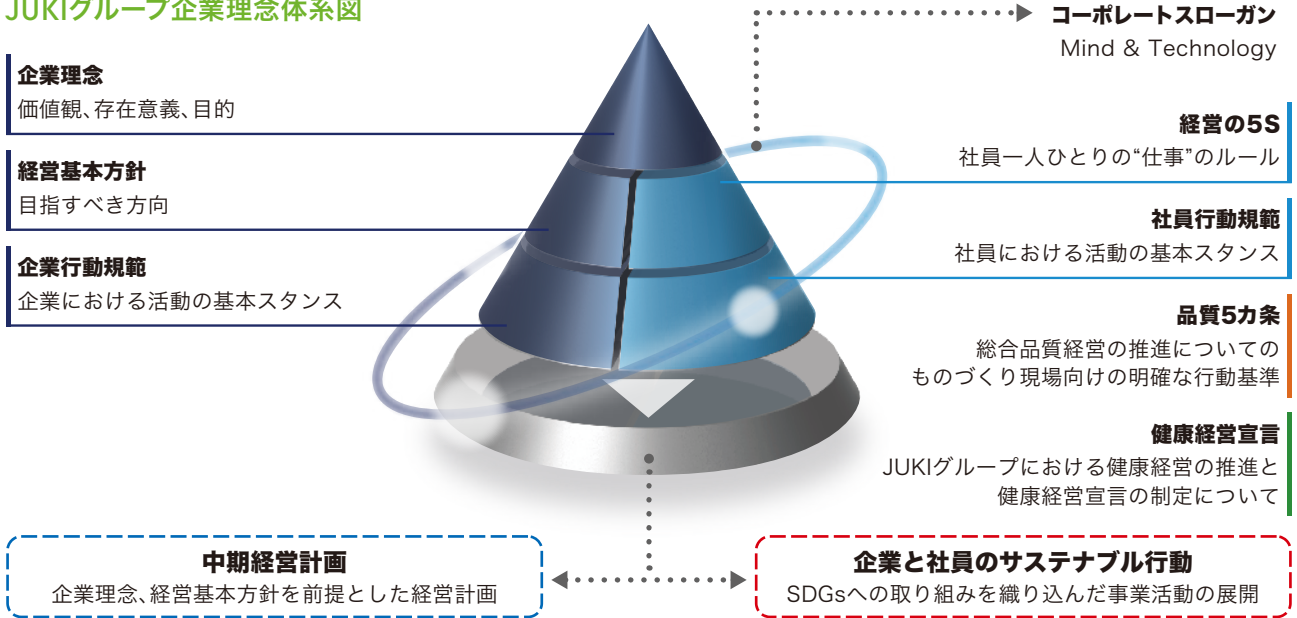
JUKIは、SDGs(持続可能な開発目標)を課題として意識していく中で、環境への配慮・地域社会への貢献・統治といったESG(Environment・Social・Governance)に関する課題に適切に配慮・対応する取り組みを進めています。グローバルに事業を展開する企業として、各国の地域および社会と良好な関係を築き、安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



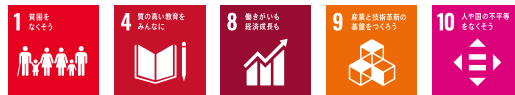
ステークホルダー・JUKI双方にとっての重要度から取り組むべき課題を抽出し、事業計画などに組み入れて、具体的な活動（企業と社員のサステナブル行動）を展開しています。

JUKIグループ企業理念体系図



JUKIのマテリアリティマップ





開発途上国の 経済発展への取り組み

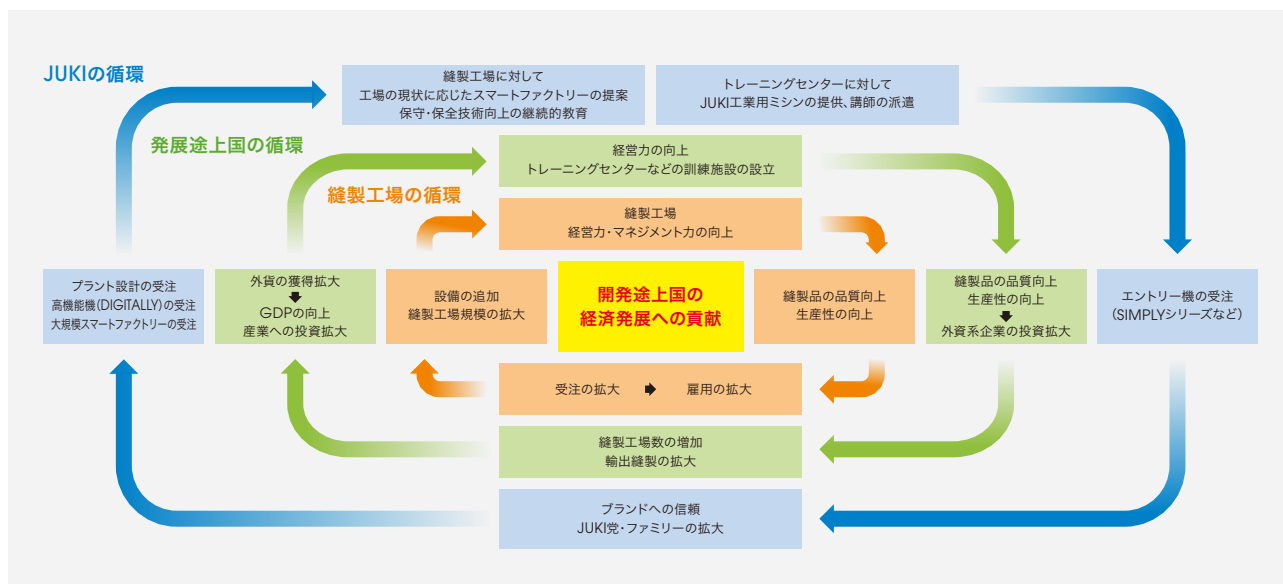
人々が生活をしていくための基盤「衣食住」の「衣」を支えているのが、JUKIの事業の一つである「工業用ミシン」です。工業用ミシン事業を通じて、開発途上国の産業創出と経済発展に努めています。

縫製工場の「最大の品質・生産性」を生み出すためのスマートファクトリー提案

JUKIは、工業用ミシン事業を開始してから6年後の1959年には縫製能率研究所を設立し、「材料・装置・人」の力を最大限に引き出し、最高のパフォーマンスを生み出すために生産管理、IE技術を用いたサポート活動を開始しました。ミシンなどの「モノ」を販売するだけでなく、お客様工場が抱える諸問題についての確にサポートを行い、それぞれのお客様の現状に即したスマートファクトリーを提案しています。



工業用ミシン事業の持続的成長への好循環事例



カンボジア「ガーメントトレーニングセンター」への縫製機器の提供と人材育成支援

JUKIは、カンボジア「ガーメントトレーニングセンター」設立のために縫製機器や教材の提供、オープン後は、縫製工場の品質、生産性を向上させるための教育訓練を足掛け9年に亘り実施しました。

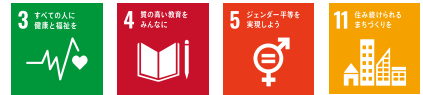
教育訓練の背景は、外国人に頼らない講師の育成や縫製工場における管理者を育成し、自国で運営できるレベルにすることでカンボジアの発展や雇用の循環につなげることです。トレーニングセンター設立以降、カンボジアの政府や関係機関の努力もあり、縫製工場数が増え、カンボジアの雇用の増大、縫製品の輸出高も大きく伸び、名実ともに同国最大の輸出産業に発展しました。



ガーメントトレーニングセンターの歴史とトレーニングの内容

1997年5月	日本政府（通商産業省）による第一次カンボジア調査団9名に加わる
1998年9月	通商産業省などの招待により、カンボジア商業省、縫製協会など18名の代表団が来日
1999年12月	「ガーメントトレーニングセンター」オープン 日本の政府機関（通商産業省）、JUKI、日本の社社が全面支援 JUKIの支援内容 講師派遣（交替で4名）、訓練用教材（クメール語）の提供、縫製機器などの提供（トータル53台）
～2008年	JUKIが担当したトレーニング内容 ・スーパーバイザーコース：品質・生産性・納期を遵守するための手法など ・その他コースも含めて25回開催、合計622人受講 ・カンボジア人のインストラクターの養成

カンボジア縫製業の発展	1995年	2007年	2019年
縫製工場数	48社	305社	603社
縫製従事者数	27,900人	346,162人	750,000人
縫製品の輸出高	28億円	2,943億円	10,282億円



地域・社会、社内での取り組み

グローバルに事業を展開する企業として、国籍・人種・性別・年齢を超えて「雇用と成長」の機会を提供し、各国の地域および社会と良好な関係を築き、良き企業市民として、社会の要請や期待に応えられるよう取り組んでいます。

手作りマスクを「多摩市教育委員会」へ寄贈

新型コロナウイルス感染症を防止するため、JUKI工業用ミシン、家庭用ミシンを活用してマスクを手作りし、多摩市教育委員会を通じて、多摩市内の小中学校26校へ合計10,500枚を寄贈しました。手作りマスクは、SMLの3種類で、大田原工場の社員約50名が携わり縫製しました。



清原社長(右)より多摩市・阿部市長へ寄贈 大田原工場での製作の様子 (2020年5月7日)

小学校社会科見学への協力

子どもたちが「見て、体験して、学ぶ」ための「社会科見学」を、2019年は多摩市から2校、横手市から1校を受け入れました。会社の様々な施設、製品の工夫、ミシンの体験を通して、働くための工夫やものづくりについて学習しました。



JUKI本社での施設見学の様子

JUKI産機テクノロジーの見学

異文化交流

2019年8月に、「ワールドキャンパス多摩(NPO法人)」の海外の学生15名の会社訪問を受け入れました。参加した学生の出身国は、アメリカ、ガボン、スロベニア、中国、チェコ、ノルウェー、フィンランド、ベルギーの8カ国。ショールームの見学のあと、家庭用ミシンを使って和柄の生地できんちゃく袋作りを体験するなど、異文化交流を深めました。



初めてミシンを使う海外の学生

ダイバーシティの推進

JUKIは性別・年齢・国籍にかかわらず、一人ひとりの多様性を活かし、多様な働き方を受け入れるダイバーシティマネジメントを推進しています。「女性活躍推進」「グローバル人材配置」「専門社員の活躍推進」の3つを柱に、組織パフォーマンスを最大化することを目指しています。中でも、女性管理職比率(日本)の向上を目標に掲げ、職務経験の充実や能力開発を通じて活躍の場を広げる取り組みを行っています。

女性管理職比率

2016年

4.3%

2020年までに

10%



属性の多様性

性別 年齢 国籍

働き方の多様性

勤務地 職種 勤務時間

多様な人材、多様な働き方を受け入れ
その能力を発揮できる環境をつくる

人材育成・教育制度

JUKIでは人が企業発展の要であると捉え、現場力強化のための教育支援やグローバル化を進めるための国内・海外の人材交流の推進を図っています。特に入社から3年間は工場実習をはじめ、専門分野別・機能別教育やOJTを通して、様々な視点から業務を遂行できるように人材育成を図っています。



働きやすい環境の整備

JUKIでは多様な人材が働きやすく、最大限のパフォーマンスを発揮できる環境を目指し、制度や環境の整備を推進しています。1992年に育児休業制度を、2002年には短時間勤務制度を導入。また、2014年には社員のさまざまな事情を考慮し、転勤や出向をしなくても力を発揮できるキャリアコース制度を、2019年には1日の所定労働時間を変えずに出勤と退勤をスライドできるスライドワーク制度を導入しました。今年2月には、秋葉原駅近くに30名程が利用できる「JUKI 秋葉原オフィス」を開設しました。



秋葉原のサテライトオフィス

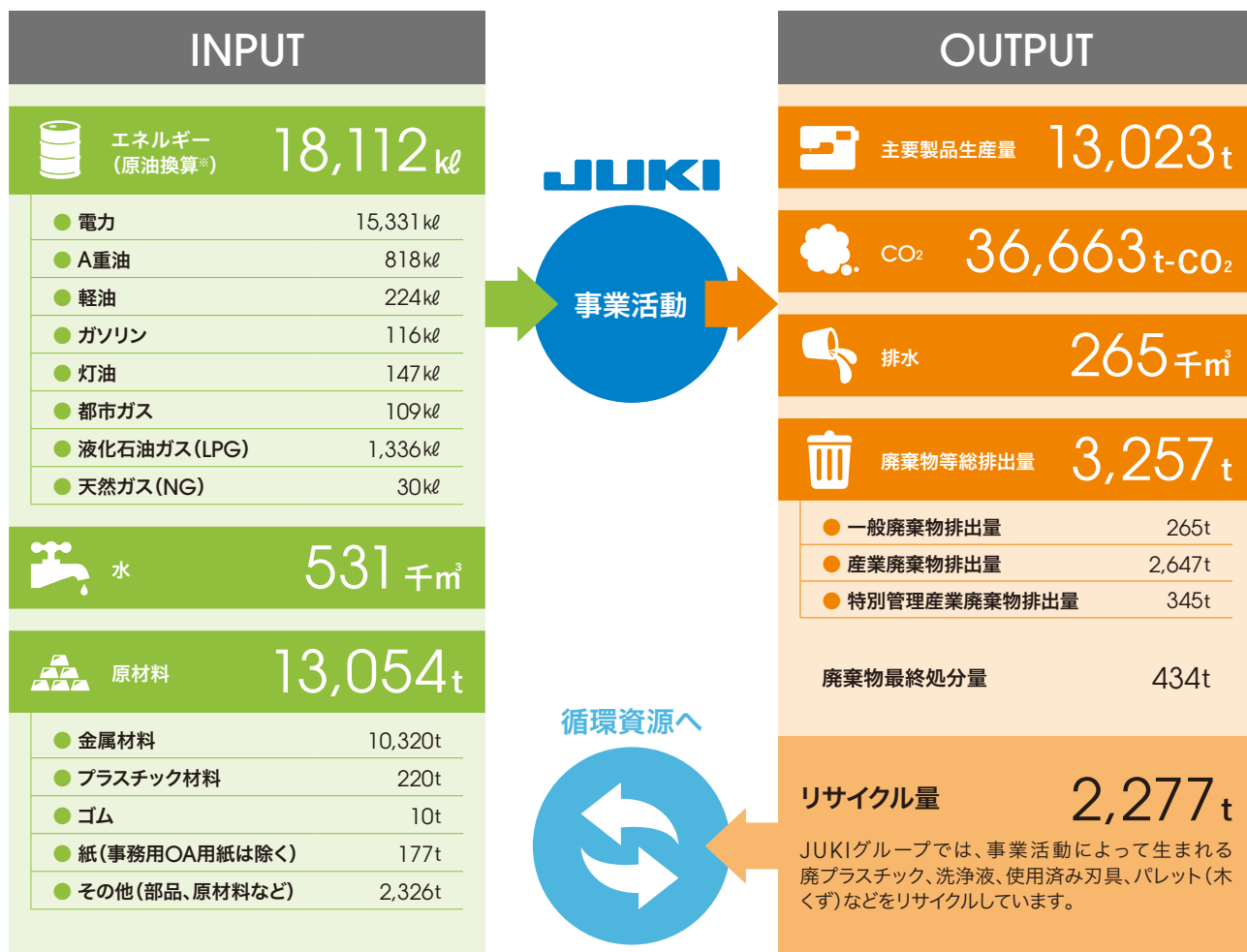
JUKIのSDGsの取り組み

環境パフォーマンスの改善

SDGsとの関連



JUKIは環境経営を宣言し、社会的要請に応えるため、環境への配慮、温室効果ガス排出削減や地球温暖化防止などの環境規制を順守し、その責任を果たしています。安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供するため、環境パフォーマンスの改善に取り組んでいます。



- 電力: 工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
- A重油: 塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
- 軽油: トラックの燃料
- ガソリン: 社用車の燃料
- 灯油: 暖房用(温風機)の燃料
- 都市ガス: 給湯、調理、暖房、冷房などの燃料
- 液化石油ガス: 常用発電機の燃料
- 天然ガス: 食堂での調理や浴室給湯などの燃料
- 金属材料、プラスチック材料、ゴム: 部品の材料
- 紙: 輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用及び製造工程での製品の打コン防止用

- CO₂: 電気や燃料の使用に伴い発生
- 一般廃棄物: 家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- 産業廃棄物: 工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた20種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット(木くず)、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- 特別管理産業廃棄物: 産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあり、特に厳重な管理が必要なもの。古いコンデンサなどに含まれるPCBなど
- 最終処分: 廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- リサイクル: 資源として再生して有効利用すること

このデータは、JUKIと国内・海外製造グループ会社の2019年度データについてまとめたものです。

※ 原油換算: 異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したものです。



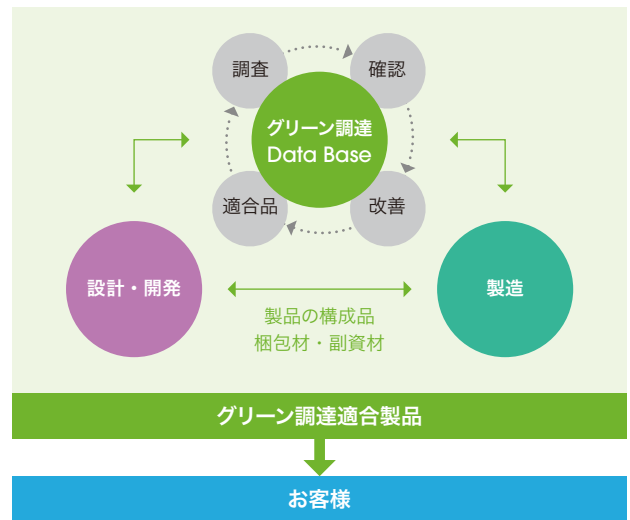
製品ライフサイクルにおける 環境配慮の取り組み

グリーン調達ガイドラインを定め、協力会社と連携した部品購買に努めています。また、ローレベルでの環境負荷を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」に認定し、製品ライフサイクル全般で、環境に配慮した取り組みを行っています。

JUKIグループグリーン調達

JUKIグループでは、1998年に制定した「ECO MIND宣言」に基づき、地球環境にやさしい環境保全活動をお取引先とともに取り組んでいます。2011年からは物質管理の手段として、サプライチェーンを基本にした業界標準のJAMP AIS調査ツールを取り入れ、国内外の拠点で活動を展開しています。また、製造拠点においては、それらの入荷時に有害化学物質分析を行うことで、万一の有害物質混入を防いでいます。

「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」は、2004年8月に初版を制定し、法改正などを反映させた見直しを行い、2019年12月に第9版目の改訂を行いました。本改訂は、含有禁止物質の掲載を主要物質のみとし、それ以外の管理対象物質の詳細は、欧州委員会のサイトを参照する形に変更し、対象物質追加の際、随時対応可能な方法としました。



*「グリーン調達ガイドライン」は、JUKIホームページでご紹介しています。

ECO PRODUCTS(2019年)



工業用ミシン



LZ-2290Cシリーズ

セミドライヘッド電子本縫千鳥縫ソーイングシステム

ECO POINT 待機消費電力39.3%削減



LH-4500C シリーズ

セミドライヘッド2本針本縫針送りソーイングシステム

ECO POINT 待機消費電力50.8%削減



DDL-8000Aシリーズ

ダイレクトドライブ高速1本針本縫自動糸切りミシン

ECO POINT 待機消費電力61.1%削減

家庭用ミシン



MO-114DN

家庭用ロックミシン

ECO POINT 消費電力13.5%削減
※基本性能あたり

産業装置



RS-1R

高速スマートモジュラーマウンタ

ECO POINT 包装材廃棄物、
取り付けねじ数削減



RX-7R

高速スマートモジュラーマウンタ

ECO POINT 消費電力15.6%削減
※基本性能あたり

JUKIのSDGsの取り組み

お客様満足度向上の取り組み

JUKIは、お客様の声を直接聞くことができるよう、サポート体制の充実に取り組んでいます。お客様との接点を増やすことで、お客様に満足いただける製品・サービスを提供し続けます。

工業用ミシン



Hempel 漢帛国際集团有限公司

<http://www.hempelgroup.com/>

総裁

高敏 Nancy さん

私たちの会社は、主に高級婦人服を約6,000人の従業員で縫製し、世界のお客様へ製品をお届けしています。

私たちのスローガンは①品質第一、②スピーディーな対応、③イノベーション、④社会的責任の4つで、中でも全社員が“品質”を最優先に、高品質なものづくりを推進しています。

そのために、確実な指導、各工程の仕様・規格の理解、資材の速やかな供給を工場長の重要業務として、進捗フォローと監督に全精力を傾けています。

JUKIさんとのお付き合いは1992年の創業当初からで、導入台数は10,000台を超え当社の98%を占めています。JUKI製品は、私たちの方針と同じく品質が良く、技術要求も満たしています。生産効率の高さに加え、タイムリーに技術サービスを実施いただける点にも満足しています。

今後は、私たちが構築しているスマートファクトリーやプラットフォームにもJUKIさんの協力を期待しています。ともに発展し、win-winの関係で成功に結び付け、さらに関係を深めていきたいと思っています。

“高品質最優先が
JUKIミシンと合致しています”



漢帛国際社では、全社員が「3つのNO」「不良品排除」「不良品を生産しない」「不良品を流出させない」ことを合言葉に高品質への意識を高めています。

家庭用ミシン



パターンレーベル

<http://www.pattern-label.com/>

片貝 夕起 さん

小さいころから母の洋裁を見て育ったことで、ファッションへの興味を持ち、アパレルメーカーに就職し、パタンナー・デザイナーとしてのキャリアを積みました。出産を機に退社した後、息子のデニムパンツを作り始めたのをきっかけにホームソーイングを始めました。現在は、パターンレーベル(型紙のネット販売)、子供服などの制作本の執筆、ワークショップなどを行っています。

制作物は子供服をはじめ、レディス、メンズ、バッグ類などで、既製品のような完成度の高さや、表からは見えない箇所への処理にもこだわりをもって制作しています。さらに、「機能美」と「使いやすさ」も追求し、お客様が制作過程でその技法を学べるようにしています。

ミシンは丈夫に早く制作できるツールとして、以前から活用していましたが、JUKIさんの職業用ミシンに出会い、高品質かつ使い勝手の良さに加え、薄物から厚物まできれいに縫製できるため、私の欠かせないパートナーになりました。

今は、主人と工房のスタッフでワークショップなどを運営していますが、参加された多くのお客様がとても喜んでくださり、幸せを感じています。今後も私たちだけではできないワクワクするようなイベントをJUKIさんとコラボしてやっていきたいと思っています。

“薄物から厚物まで縫える
JUKIミシンがお気に入りです♪”



夕起さんが主催するオリジナルパターンのネットショップ“Pattern Label”は日本全国のソーイングファンに支持されています。子供服の作り方の著作権は累計20万部を出版するほどの大人気です。



産業装置



日本電産 電気制御機器(青島)有限公司

<http://www.embraco.com.cn/>

プロジェクトマネージャー
朱小団 さん

私たちの会社は冷凍システム用コンプレッサーのメーカーです。生産量は年間3,700万台にのぼり、その製品は世界80カ国以上で使われています。

私たちが勤務する青島工場は2007年に設立され、現在約400人が働いています。製品の要となるプリント基板の製造工場として、高効率生産、ハイレベルな品質管理、納期厳守をモットーに、日々生産活動を行っています。

今から4~5年前、私たちの工場は人手不足に苛まれました。それに輪をかけてグループ企業からさらなる生産性向上を求められたのです。その時に導入したのが、JUKIさんの手挿入工程を自動化する異形部品挿入機でした。この設備導入が我々の生産の変化点になりました。装置導入後は、この工程で70%の省人化ができ、人に起因していた品質のバラツキも改善できました。同時に生産ラインのタクトが15%向上し、工場のスペースも10%節約できました。装置導入後も様々なサービス、サポートに助けられています。

JUKIさんには、より速く、よりフレキシブルな設備の開発を期待しています。そして、今後もより深い協力関係を築き、私たちの生産を支えていただきたいと思います。

“設備の汎用性・安定性に
手厚いサポートが加わり百人力です”



日本電産 電気制御機器(青島)有限公司 生産現場
会社外観

グループ事業



AIメカテック株式会社

<https://www.ai-mech.com/>

製造部 主任技師
堀田 大輔 さん

私たちの会社は、幅広い製品に活用されている「フラットパネルディスプレイ」などを作るための製造装置を開発・製造しているメーカーです。製品の中には60トンもある巨大装置もありますが、ミクロン単位の精度が求められる精密機器です。2016年7月に(株)日立製作所から新設分割し、AIメカテック(株)として、新たな一歩を踏み出しました。「AI」=「あい」と読む社名は、お客様への感謝と製品への「愛」に加え、Advanced and Innovative Technologyの意味を込めています。2018年7月には、プロセス開発センターを開設し、さらなる技術革新や事業領域の拡大に取り組んでいます。

JUKI大田原工場さんへの業務委託はフレーム加工から始まりましたが、現在ではユニットの組み付けも担っていただいています。当社での約1カ月にわたる研修の後、独自で治具を製作され、誰でも高品質の組み付けができるように工程改善された作業標準書も作成されています。製造力の確かさに加え、現状に満足しない改善姿勢が、私たちの求めるQCDに応えられる要因ではないかと思えます。

同じ「ものづくり」の会社として、私たちがさらなるグローバル企業へと躍進するために、生産技術、品質保証も巻き込んだJUKIさんの総合力を生かしたサポートを期待します。

“「性能・品質世界一」
同じ志を持つものづくり企業として
全幅の信頼で託せるのがJUKIです”



プロセス開発センター

高精度IJP装置

JUKIのSDGsの取り組み

ガバナンスの取り組み

お取引先や投資家・株主の皆様とのコミュニケーションを図るとともに、コーポレート・ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、また、ステークホルダーの信頼にお応えするため、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置付け、その整備と充実に努めています。

また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めています。

JUKIの取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しています。また、執行役員制度を導入し、業務執行の円滑化と責任の明確化を図っています。

取締役6名のうち、2名を社外取締役とすることで、取締役および取締役会の経営監視機能を高めるとともに、社外からの意見を経営に積極的に取り入れる体制を強化しています。

また、取締役会の下に経営戦略会議を組織し、当社およびグループ会社からなる企業集団に関して、取締役をはじめ担当執行役員や担当部門責任者も出席し、経営に関する基本方針や戦略などについて様々な角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となる体制をとっています。

リスク管理体制としては、リスク管理会議、危機対応タスクフォースを設置しています。

内部監査の組織としては、グループ監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社に対する業務監査を行っています。また監査役監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、グループ監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しています。監査役を補佐する組織としては、監査役室を設置しています。

コンプライアンス

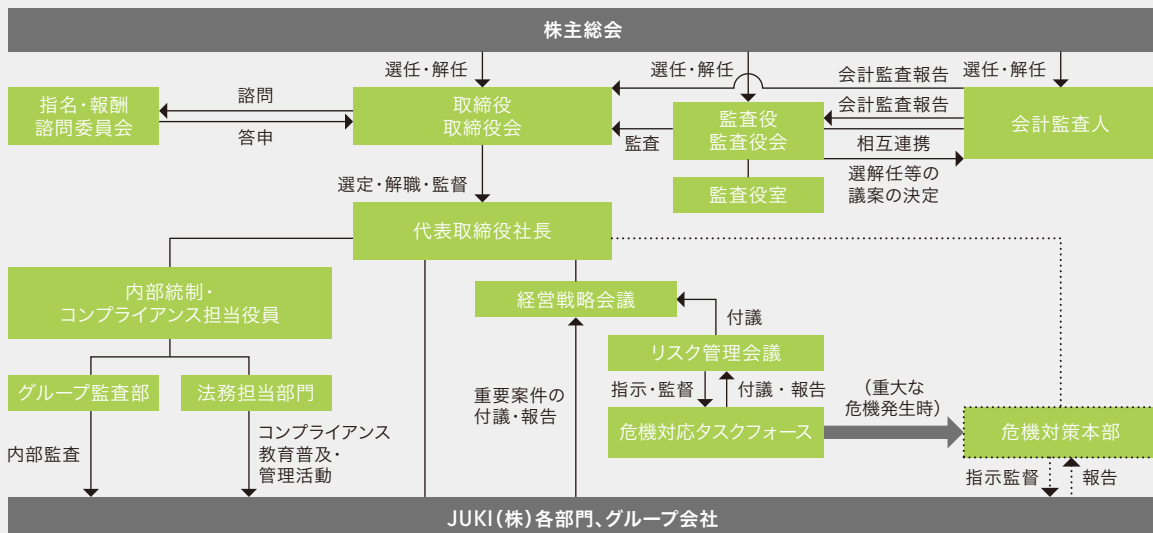
JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置付けています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範“10カ条”」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議では、全社的リスクおよび重要リスクを管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。

さらに重大な危機が発生した場合には「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応を行います。

コーポレート・ガバナンス体制図





役員紹介

(2020年4月1日現在)

取締役



清原 晃

代表取締役社長
兼 JUKIオートメーションシステムズ(株)
代表取締役社長



内梨 晋介

代表取締役専務執行役員
「グローバル・オペレートセンター(財務経理部)
担当」兼「事業センター(産業機器&システム
ユニット産業装置カンパニー、グループ事業カン
パニー)担当」兼「生産センター担当」



見浦 利正

取締役常務執行役員
「グローバル・オペレートセンター(人事総務部、
業務プロセス革新部)担当」兼「秘書室担当」
兼「グループ監査部担当」兼「グループ品質保証
部担当」兼「内部統制・コンプライアンス担当」
兼 人事総務部長



浜外 剛重

取締役常務執行役員
「事業センター(縫製機器&システムユニット)担当」
兼「縫製機器&システムユニット長」兼「事業
センター(カスタマービジネスカンパニー)担当」



長崎 和三

社外取締役
(独立役員)



堀 裕

社外取締役
(独立役員)

監査役



鈴木 正彦

常勤監査役



田中 昌利

社外監査役
(独立役員)



渡辺 淳子

社外監査役
(独立役員)

常務執行役員



後藤 博文

常務執行役員



阿部 裕

常務執行役員



石橋 次郎

常務執行役員



二瓶 勝美

常務執行役員



濱 学洋

コーポレートオフィサー



新田 実

コーポレートオフィサー



松本 潔

コーポレートオフィサー



安西 洋

コーポレートオフィサー



貫井 邦夫

コーポレートオフィサー



中尾 憲二

コーポレートオフィサー



小西 浩樹

コーポレートオフィサー



日塔 隆

コーポレートオフィサー



前田 豊次

コーポレートオフィサー



鈴木 将義

コーポレートオフィサー



鈴木 康之

コーポレートオフィサー



山中 敏幸

コーポレートオフィサー



南 大造

コーポレートオフィサー



野崎 修一

コーポレートオフィサー

財務データ

2年間の主要財務データ(連結)

(単位：百万円)

	2018年度 2018年12月期	2019年度 2019年12月期
損益状況 (会計年度)		
売上高	112,064	99,169
（海外売上高比率）	84.7%	82.9%
売上総利益	34,143	28,869
営業利益	9,148	3,838
経常利益	8,385	2,941
親会社株主に帰属する当期純利益	6,640	1,763
設備投資額	2,721	2,907
減価償却費	2,525	3,063
研究開発費	5,675	5,398
財政状態 (事業年度末)		
総資産	119,121	114,715
純資産	37,241	37,752
自己資本	36,529	37,037
財務指標		
自己資本比率	30.7%	32.3%
自己資本当期純利益率	19.2%	4.8%
キャッシュ・フロー状況 (会計年度)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,682	3,054
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,390	△3,430
フリーキャッシュ・フロー	292	△376
財務活動によるキャッシュ・フロー	967	△810
1株当たり情報		
1株当たり当期純利益 (EPS)	226.68円	60.20円
1株当たり配当金 (DPS)	30円	25円
1株当たり純資産額 (BPS)	1,246.93円	1,264.28円
非財務データ		
従業員	5,891人	5,762人
海外従業員比率	57.8%	57.1%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2018年度 2018年12月期	2019年度 2019年12月期
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,324	5,987
受取手形及び売掛金	33,465	30,461
商品及び製品	28,885	29,299
仕掛品	4,796	3,798
原材料及び貯蔵品	9,835	8,363
その他	2,825	2,684
貸倒引当金	△ 387	△ 383
流動資産合計	86,744	80,210
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,890	11,514
機械装置及び運搬具（純額）	3,411	3,610
工具、器具及び備品（純額）	1,053	1,079
土地	6,362	6,362
リース資産（純額）	315	381
建設仮勘定	107	329
その他	—	878
有形固定資産合計	23,141	24,154
無形固定資産	1,992	2,096
投資その他の資産		
投資有価証券	2,563	3,888
長期貸付金	0	0
長期前払費用	260	226
繰延税金資産	2,509	2,356
退職給付に係る資産	1,303	1,133
その他	2,007	2,006
貸倒引当金	△ 1,402	△ 1,357
投資その他の資産合計	7,242	8,254
固定資産合計	32,376	34,505
資産合計	119,121	114,715

	2018年度 2018年12月期	2019年度 2019年12月期
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,145	7,120
電子記録債務	5,140	2,877
短期借入金	35,901	37,211
リース債務	101	123
未払金	740	1,239
未払費用	3,557	3,279
未払法人税等	1,115	452
賞与引当金	38	28
設備関係支払手形	191	527
為替予約	—	240
その他	1,335	1,667
流動負債合計	59,266	54,769
固定負債		
長期借入金	16,153	15,400
リース債務	223	264
役員退職慰労引当金	68	61
退職給付に係る負債	5,582	5,251
その他	585	1,216
固定負債合計	22,613	22,194
負債合計	81,880	76,963
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,035	2,035
利益剰余金	19,610	20,494
自己株式	△ 607	△ 607
株主資本合計	39,082	39,966
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	458	468
為替換算調整勘定	△ 2,973	△ 3,437
退職給付に係る調整累計額	△ 38	40
その他の包括利益累計額合計	△ 2,552	△ 2,929
非支配株主持分	711	714
純資産合計	37,241	37,752
負債純資産合計	119,121	114,715

財務データ

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度 2018年12月期	2019年度 2019年12月期
売上高	112,064	99,169
売上原価	77,921	70,300
売上総利益	34,143	28,869
販売費及び一般管理費	24,995	25,030
営業利益	9,148	3,838
営業外収益		
受取利息	44	45
受取配当金	157	154
受取手数料	202	195
貸倒引当金戻入益	228	79
その他	473	376
営業外収益合計	1,106	852
営業外費用		
支払利息	805	796
為替差損	980	874
その他	82	77
営業外費用合計	1,868	1,749
経常利益	8,385	2,941
特別利益		
固定資産売却益	17	11
特別利益合計	17	11
特別損失		
固定資産除売却損	50	16
出資金評価損	—	5
特別損失合計	50	22
税金等調整前当期純利益	8,353	2,930
法人税、住民税及び事業税	1,749	977
法人税等調整額	△ 175	164
法人税等合計	1,573	1,141
当期純利益	6,780	1,789
非支配株主に帰属する当期純利益	139	25
親会社株主に帰属する当期純利益	6,640	1,763

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2018年度 2018年12月期	2019年度 2019年12月期
当期純利益	6,780	1,789
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△ 559	9
為替換算調整勘定	△ 1,028	△ 474
退職給付に係る調整額	△ 247	79
その他の包括利益合計	△ 1,834	△ 385
包括利益	4,945	1,403
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,829	1,386
非支配株主に係る包括利益	115	17

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018年度 2018年12月期	2019年度 2019年12月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	8,353	2,930
減価償却費	2,525	3,063
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 199	△ 38
賞与引当金の増減額 (△は減少)	21	△ 9
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	367	△ 54
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△ 193	4
受取利息及び受取配当金	△ 201	△ 200
支払利息	805	796
為替差損益 (△は益)	△ 28	3
有形及び無形固定資産除売却損益 (△は益)	32	5
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 2,153	2,578
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 8,035	1,361
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,515	△ 6,159
割引手形の増減額 (△は減少)	—	12
その他	747	1,097
小計	4,557	5,392
利息及び配当金の受取額	201	201
利息の支払額	△ 805	△ 799
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 1,271	△ 1,740
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,682	3,054
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 2,633	△ 2,262
有形及び無形固定資産の売却による収入	148	48
投資有価証券の取得による支出	△ 1	△ 1,234
貸付金の回収による収入	1	0
その他	94	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,390	△ 3,430
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,377	838
長期借入れによる収入	6,754	8,690
長期借入金の返済による支出	△ 6,928	△ 8,845
自己株式の取得による支出	△ 0	△ 0
配当金の支払額	△ 1,022	△ 877
セールアンド割賦バック債務返済による支出	△ 32	△ 1
その他	△ 179	△ 614
財務活動によるキャッシュ・フロー	967	△ 810
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 293	△ 138
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	965	△ 1,324
現金及び現金同等物の期首残高	6,335	7,301
現金及び現金同等物の期末残高	7,301	5,976

沿革

“日本から世界185カ国へ”のグローバル化の歩みをまとめました。
 また、創業より、「技術開発型企业」としてお客様のニーズを捉え、
 一貫して取り組んできたイノベティブな製品の歴史をご紹介します。

1940s

1950s

1960s

1970s

1980s

東京重機工業株式会社

1938
 東京都の機械業者
 が出資「東京重機
 製造工業組合」
 発足



1945
 ミシン製造業転換
 への許可がおりる

1947
 家庭用ミシン
 第1号機完成
 (HA-1)



1953
 工業用ミシンに
 参入、第1号機を
 発売(DDW-II)



1957
 単軸回転天秤発明
 恩賜発明賞を受賞



1961
 電子計算機周辺
 機器の製造販売を
 開始



1964
 東証第一部に
 上場

1970
 JUKI初の海外
 販売会社を香港に
 設立
 (現・JUKI
 (HONG KONG)
 LTD.)



1971
 栃木県大田原市に
 工業用ミシンの
 製造工場
 「大田原工場」竣工



1972
 西ドイツに
 ヨーロッパの拠点
 となる販売会社を
 設立
 (JUKI (EUROPE)
 GMBH)



1974
 アメリカに販売
 会社を設立
 (現・JUKI
 AMERICA, INC.)



1981
 工業用ミシン本部
 がデミング賞受賞
 (実施賞事業部賞)



1987
 SMTの分野に参入
 (産業装置事業)
 1号機の製造販売
 を開始
 (KP-350)



1988
 JUKI株式会社
 社名変更



家庭用ミシン

1947
 HA-1



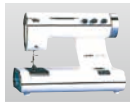
1953
 ロータリックス
 HW-62B



1968
 2色同時
 編込装置付編機
 K-811



1977
 フルフル
 HZL-11



1978
 電子フローラ
 HZL-550



1985
 ザ・ミシン
 HZL-7000



1990
 シュプール90
 TL-90



1993
 アローネ
 HZL-008



1997
 jupre
 HZL-009



工業用ミシン

1953
 本縫ミシン
 DDW-II型



1964
 インターロックミシン
 MO-357
 オーバーロックミシン
 MO-352



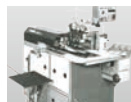
1969
 本縫自動糸切ミシン
 DDL-555-II



1979
 本縫ボタン付ミシン
 LK-982



1979
 自動玉縁縫機
 APW-116



1986
 ジューキ
 ハンガーシステム
 JHS-201



1987
 クイックレスポンス
 ソーイングシステム
 QRS



1996
 ほつれ防止単環
 ボタン付
 MB-377



電子・産業装置

1964
 カード穿孔機
 H-163



1976
 ラインプリンタ
 5240



1982
 データエントリー装置、
 漢字キーボード
 1860



1988
 エントリー機
 (導入用)
 KP-350



1997
 高速チップマウンタ
 KE-750
 高速汎用マウンタ
 KE-760



1990s

2000s

2010s

2020s

JUKI株式会社

1990
JUKI初の海外工場を中国上海市に合併で設立 (家庭用ミシン製造工場・上海重機ミシン)



1995
シンガポールにアジア販売を統括する会社を設立 (現・JUKI SINGAPORE PTE. LTD.)



1995
中国に工業用ミシンの部品製造・調達を行う会社を設立 (現・重機(寧波)精密機械)



2000
全額出資の工業用ミシンの製造工場を上海に設立 (重機(上海)工業)



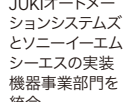
2005
ポーランドにヨーロッパの販売統括拠点を設立 (JUKI CENTRAL EUROPE SP.ZO.O.)



2009
多摩市鶴牧に建設した新社屋へ移転 (12月)



2013
産業装置部門を独立させJUKIオートメーションシステムズを設立



2017
秋田3社を統合して「JUKI産機テクノロジー」を発足



2019
ESSEGI AUTOMATION S.r.l.へ出資



2020
重機(上海)工業と重機(寧波)精密機械を合併 (存続会社: 重機(上海)工業)

1994
中国に販売会社を設立 (東京重機国際貿易(上海))

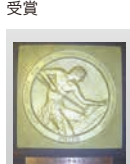
1995
ベトナムに工業用ミシンの部品工場を設立 (現・JUKI (VIETNAM) CO.,LTD.)



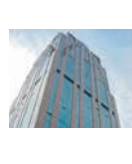
1995
工業用ミシンの製造工場を合併で中国廊坊に設立 (新興重機工業)



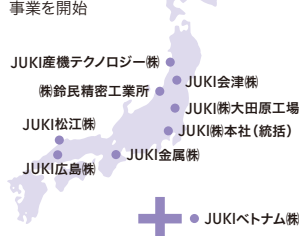
1997
工業用ミシンの「下糸自動供給装置」の開発が機械振興協会賞を受賞



2001
中国を統括する全額出資の子会社を設立 (重機(中国)投資)



2015
日本とベトナムにある製造工場のものでつくり力を結集させ、グループ事業を開始



2001
ジュレール HZL-010



2003
家庭用コンピューターミシン HZL-E60



2005
ロックミシン RS-10



2009
エクシード キルトスペシャル HZL-F600JP



2013
ロックミシン シュルル MO-1000ML



2015
キルト専用ミシン フレームタイプ TL-2200QVP



2017
HY-SPEC SL-700EX



2018
家庭用コンピュータミシン Kirei HZL-NX7



2018
ロングアームミシン J-350QVP



2019
ロックミシン MO-114DN



1996
ドライヘッド本縫自動糸切ミシン DDL-5700N-7



2000
ドライヘッド電子単環ボタン付 MB-1800S



2003
ドライヘッドオーバロック MO-6100D



2004
単環根巻きボタン付 AMB-289



2007
斜めポケット自動玉縁縫機 APW-896



2016
デジタル本縫自動糸切りミシン DDL-9000C



2017
1本針 CNCミシン AMS-251



2018
自動糸切り付き本縫ミシン (音声ガイダンス) DDL-8000A



2019
縫製管理システムソフト JaNets



2019
2本針本縫針送りソーイングシステム LH-4500C



2000
高速チップマウンタ KE-2010 高速汎用マウンタ KE-2020



2008
高速モジュラーマウンタ FX-3



2011
後工程マウンタマルチタスクプラットフォーム JM-10



2013
高速コンパクトモジュラーマウンタ RX-7



2014
自動倉庫インテリジェントストレージマネジメントシステム ISM2000



2017
高速スマートモジュラーマウンタ RS-1



2018
3D基板外観検査機 RV-2-3DH



2018
実装統合システム JaNets



2018
マルチタスクプラットフォーム JM-100



2019
高速スマートモジュラーマウンタ RS-1R



データセクション

JUKIのグローバル拠点

(2020年1月1日現在)



① ④ ① ② ① ② JUKI株
 JUKIオートメーションシステムズ株
 JUKI販売株
 JUKIゼネラルサービス株
 JUKI家庭製品お客様センター株
④ ③ JUKI株大田原工場
① ② JUKI産機テクノロジー株
⑦ ⑤ JUKI松江株
⑧ ⑥ 重機(上海)工業有
⑨ 新興重機工業有

製造拠点

日本

① JUKI産機テクノロジー株	秋田県横手市	チップマウンタ等の製造、 グループ事業関連のユニット・部品製造
② JUKI会津株	福島県喜多方市	ロストワックス・MIM 製法部品の製造 グループ事業関連の部品製造
③ 株鈴民精密工業所	新潟県長岡市	工業用ミシン等の部品製造 グループ事業関連の部品製造
④ JUKI株大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの製造 グループ事業関連の部品製造
⑤ JUKI金属株	三重県大台町	銃鉄铸件等の製造 グループ事業関連の部品製造
⑥ JUKI広島株	広島県三次市	金型・プレス加工部品等の製造 グループ事業関連の部品製造
⑦ JUKI松江株	島根県松江市	工業用ミシン等の製造 グループ事業関連の製品・部品製造

海外

⑧ 重機(上海)工業有	中国・上海	工業用ミシン等の製造 チップマウンタのフィードの製造
⑨ 新興重機工業有	中国・河北省	工業用ミシン等の製造
⑩ 上海重機ミシン有	中国・上海	家庭用ミシン等の製造

⑪ JUKIベトナム株	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシン等の製造、 ロストワックス部品の製造 グループ事業関連の部品製造
⑫ エセジオートメーション有	イタリア・ヴィチェンツァ	自動倉庫の製造

開発拠点

日本

① JUKI株	東京都多摩市	工業用ミシン、家庭用ミシン、チップ マウンタ等の製品開発、システム開発
② JUKI産機テクノロジー株	秋田県横手市	チップマウンタ、電子機器等の開発、 グループ事業関連の開発
③ JUKI株大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの開発
④ JUKIオートメーションシステムズ株	東京都多摩市	チップマウンタ等の開発
⑤ JUKI松江株	島根県松江市	工業用ミシンの開発

海外

⑥ 重機(上海)工業有	中国・上海	工業用ミシンの開発
⑦ JUKIベトナム株	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシンの開発
⑧ JUKIセントラルヨーロッパ株	ポーランド・ワルシャワ	工業用ミシンの開発
⑨ JUKIアメリカ株	アメリカ・フロリダ	工業用ミシンの開発
⑩ エセジオートメーション有	イタリア・ヴィチェンツァ	自動倉庫の開発



GLOBAL



JAPAN



10 上海重機ミシン(有) 11 7 JUKIベトナム株 3 4 重機(中国)投資(有) 東京重機国際貿易(上海)有 6 JUKIシンガポール株 8 12 JUKIセントラルヨーロッパ株 9 14 JUKIアメリカ株 15 JUKIオートメーションシステムズINC.

販売拠点

日本

- 1 JUKIオートメーションシステムズ株 東京都多摩市 チップマウンタ等の販売
 - 2 JUKI販売株 東京都多摩市 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- ◎ 支店/営業所/サービスセンター 等

海外

- 3 重機(中国)投資(有) 中国・上海 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 持株会社・中国拠点統括
- 4 東京重機国際貿易(上海)有 中国・上海 チップマウンタ等の販売
- 5 JUKI香港株 中国・香港 工業用ミシン等の販売
- 6 JUKIシンガポール株 シンガポール・バンデミア 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 (主要拠点：インドネシア、カンボジア、ミャンマー他6カ国)
- 7 JUKIタイランド株 タイ・バンコク 工業用ミシン等の販売
- 8 JUKIマシナリー・バンガラデシュ株 バングラデシュ・ダッカ 工業用ミシン等の販売
- 9 JUKIマシナリー・ベトナム株 ベトナム・ホーチミン 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- 10 JUKIインドネシア株 インド・バンガロール 工業用ミシン、チップマウンタ等の販売
- 11 JUKISMT アジア株 タイ・チョンブリ チップマウンタ等の販売
- 12 JUKIセントラルヨーロッパ株 ポーランド・ワルシャワ 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 (その他拠点：トルコ、ロシア、ペラルーシ)
- 13 JUKIイタリア株 イタリア・ミラノ 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売

- 14 JUKIアメリカ株 アメリカ・フロリダ 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 (その他拠点：メキシコ、ペルー、コロンビア)
 - 15 JUKIオートメーションシステムズINC. アメリカ・ノースカロライナ チップマウンタ等の販売
 - 16 JUKIオートメーションシステムズGmbH. ドイツ・デュルンベルク チップマウンタ等の販売
 - 17 エセジオオートメーション(有) イタリア・ヴィチェンツァ 自動倉庫の販売
- ◎ JUKI直営の支店/営業所/サービスセンター 等
● 主な代理店

その他拠点

日本

- 1 JUKIゼネラルサービス株 東京都多摩市 ビル管理・リフォーム・印刷他サービス
- 2 JUKI家庭製品お客様センター株 東京都多摩市 家庭用ミシンのサービス対応

主要拠点数

	日本	海外	合計
● 製造	7	5	12
● 開発	5	5	10
● 販売	2	15	17
● その他	2	0	2

データセクション

会社概要および株式情報

(2019年12月31日現在)

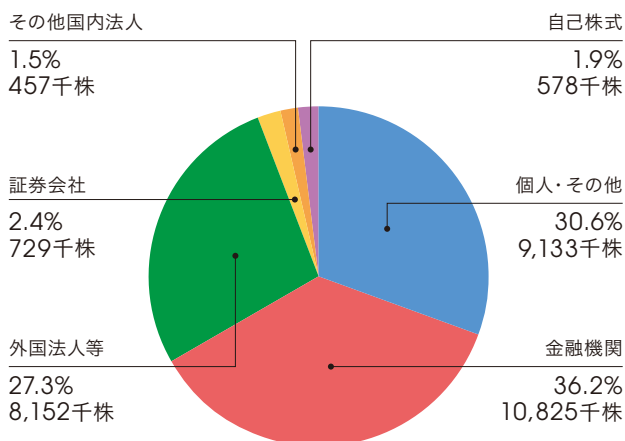
会社データ

商号	JUKI株式会社
創立	1938年12月15日
代表者	代表取締役社長 清原 晃
資本金	180億4,471万円
主要事業所	本社： 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 TEL 042-357-2211 大田原工場： 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863 TEL 0287-23-5111
決算期	12月31日
定時株主総会	3月
従業員	5,762名(連結)、907名(単体)
連結子会社	26社

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	29,874,179株
株主数	11,349名
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部(貸借銘柄)
証券コード	6440
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

所有者別株式分布状況



編集方針

JUKIコーポレートレポート2020は、会社案内とSDGsの取り組みを1冊に統合した報告書です。今回発行するレポートでは、当社グループの事業や価値創造について、お客様や株主・投資家をはじめステークホルダーの皆様にご理解いただくため、内容を拡充してお届けします。

見通しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見通しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見通しは、将来の業績を保証するものではなく、様々な重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

Mind & Technology



JUKI

JUKI株式会社
〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1
TEL 042-357-2211
<https://www.juki.co.jp>

2020.08.10/800